

データヘルス計画（第2期） 年次報告書

[令和3年度]

最終更新日：令和 4 年 11 月 01 日

溪仁会健康保険組合

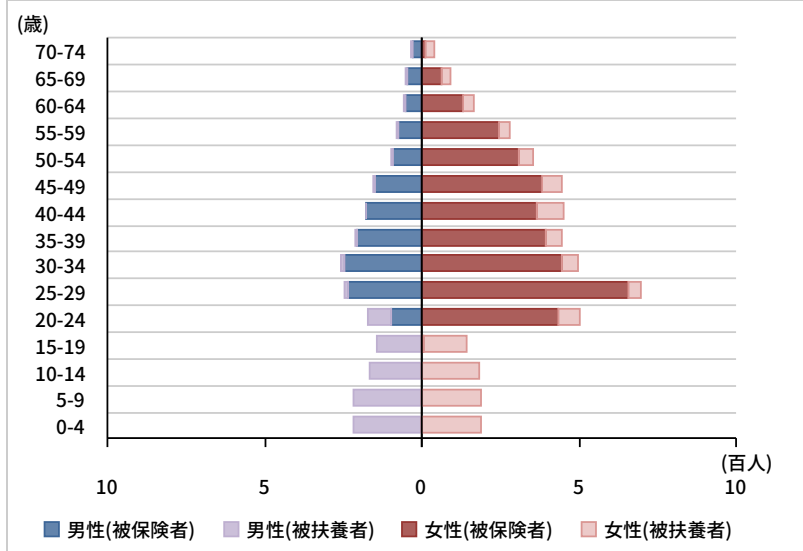
STEP 1- 1 基本情報

組合コード	10701		
組合名称	湊仁会健康保険組合		
形態	単一		
業種	医療、福祉		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	4,849名 男性29.0% (平均年齢39.98歳) * 女性71.0% (平均年齢39.1歳) *	4,905名 男性29.0% (平均年齢40.04歳) * 女性71.0% (平均年齢39.0歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	0名	-名
加入者数	6,945名	6,785名	-名
適用事業所数	16カ所	16カ所	-カ所
対象となる拠点数	16カ所	16カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	102‰	102‰	-‰

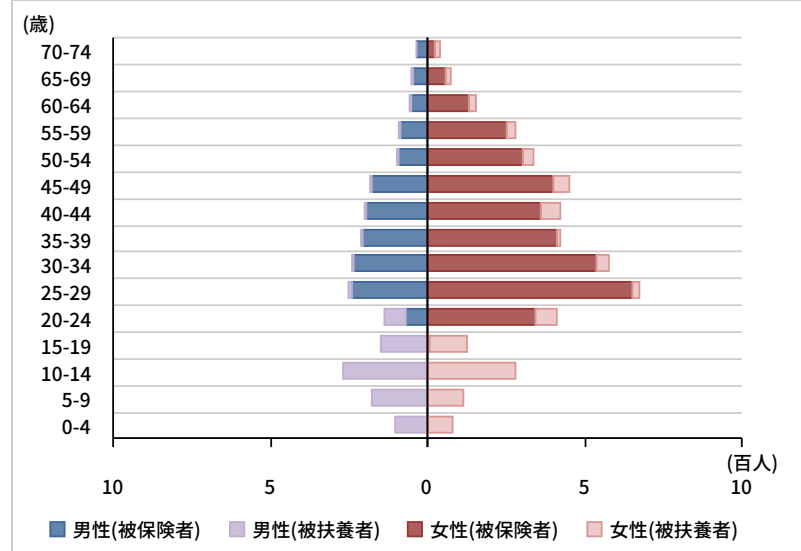
		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	0	0	-	-
	保健師等	1	0	1	0	-	-
事業主	産業医	5	0	5	0	-	-
	保健師等	2	1	5	1	-	-
		第2期における基礎数値 (平成28年度の実績値)					
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)	全体	2,038 / 2,264 = 90.0 %					
	被保険者	1,883 / 1,922 = 98.0 %					
	被扶養者	155 / 342 = 45.3 %					
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)	全体	173 / 314 = 55.1 %					
	被保険者	168 / 304 = 55.3 %					
	被扶養者	5 / 10 = 50.0 %					

		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	1,588	327	1,534	313	-	-
	特定保健指導事業費	3,109	641	4,765	971	-	-
	保健指導宣伝費	7,360	1,518	6,825	1,391	-	-
	疾病予防費	74,391	15,342	56,980	11,617	-	-
	体育奨励費	1,014	209	1,014	207	-	-
	直営保養所費	0	0	0	0	-	-
	その他	0	0	0	0	-	-
	小計 …a	87,462	18,037	71,118	14,499	0	-
	経常支出合計 …b	2,097,827	432,631	2,553,764	520,645	-	-
	a/b×100 (%)	4.17		2.78		-	

令和3年度



令和4年度



令和5年度



男性（被保険者）

令和3年度				令和4年度				令和5年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	2人	10～14	0人	15～19	2人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	98人	25～29	234人	20～24	66人	25～29	239人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	246人	35～39	204人	30～34	235人	35～39	207人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	179人	45～49	151人	40～44	196人	45～49	178人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	92人	55～59	75人	50～54	90人	55～59	84人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	52人	65～69	44人	60～64	52人	65～69	46人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	28人			70～74	34人			70～74	-人		

女性（被保険者）

令和3年度				令和4年度				令和5年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	5人	10～14	0人	15～19	8人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	432人	25～29	659人	20～24	343人	25～29	653人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	448人	35～39	392人	30～34	535人	35～39	414人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	366人	45～49	384人	40～44	359人	45～49	401人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	308人	55～59	247人	50～54	302人	55～59	251人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	130人	65～69	60人	60～64	131人	65～69	59人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	13人			70～74	20人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

令和3年度				令和4年度				令和5年度			
0～4	219人	5～9	215人	0～4	101人	5～9	179人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	166人	15～19	144人	10～14	270人	15～19	151人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	73人	25～29	11人	20～24	67人	25～29	9人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	10人	35～39	5人	30～34	6人	35～39	5人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1人	45～49	5人	40～44	3人	45～49	5人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	3人	55～59	5人	50～54	4人	55～59	5人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	6人	65～69	3人	60～64	6人	65～69	5人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	4人			70～74	2人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

令和3年度				令和4年度				令和5年度			
0～4	190人	5～9	187人	0～4	80人	5～9	115人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	182人	15～19	138人	10～14	282人	15～19	120人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	68人	25～29	39人	20～24	68人	25～29	22人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	50人	35～39	54人	30～34	40人	35～39	10人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	85人	45～49	63人	40～44	64人	45～49	53人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	45人	55～59	35人	50～54	34人	55～59	26人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	34人	65～69	28人	60～64	25人	65～69	16人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	28人			70～74	18人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

- ・被保険者のうち、女性が71.0%、男女の平均年齢は38.9歳である。
- ・高齢者納付金等の影響により、保健事業費の所要財源率は3.98%と低い。
- ・被扶養者の特定健診受診率及び特定保健指導の実施率の向上を図ることが重要である。
- ・被保険者の生活習慣病（高血圧症・糖尿病・高脂血症）の予防対策と重症化予防対策が重要である。
- ・前期高齢者の医療費適正化と抑制、重症化予防対策が重要である。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴
・被保険者の特定保健指導実施率向上及び健診結果異常値放置者対策の実施。
・事業主と健保組合、健診機関とのコラボヘルスの更なる推進。
・被扶養者の特定健診受診率向上
・前期高齢者の重症化予防対策
・限られた保健事業予算ではあるが、メンタルヘルス・歯周病予防・ウォーキング等の事業を実施し、被保険者への健康意識の啓蒙を図る。

事業の一覧

職場環境の整備	
疾病予防	メンタルヘルス事業
加入者への意識づけ	
特定健康診査事業	被扶養者・任意継続者の特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	機関紙の発行
保健指導宣伝	疾病予防資料「医療費のお知らせ」の発行
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知の発行
保健指導宣伝	出産育児情報誌の配付
保健指導宣伝	家庭常備薬特別斡旋
保健指導宣伝	歯周病予防と喫煙対策キャンペーン
疾病予防	被保険者の年齢階層別「総合健診」の補助
疾病予防	被保険者のがん検診の補助
疾病予防	被扶養者・任意継続者のがん検診
疾病予防	被扶養者・任意継続者の総合健診
疾病予防	奥さま健診
疾病予防	健診異常値放置者対策受診勧奨事業
体育奨励	健康づくり事業への補助
個別の事業	
事業主の取組	
1	労働安全衛生法による定期健康診断

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価	
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因		
職場環境の整備														
疾病予防	6	メンタルヘルス事業	【目的】メンタル疾患の休業者を防止する。 【概要】産業保健支援「まめやか相談室」の専門職によるセミナー、メンタル相談、復帰等の活動を支援する。	被保険者被扶養者	全て	男女	16～74	全員	3	・4月4日【手稲溪仁会病院新入職員オリエンテーション・メンタルヘルス・セル・5月11日【溪仁会グループ新任役職者研修会】（産業カウンセラー） ・6月14日、20日、7月4日、12日【溪仁フケア研修】（羽岡医師） 溪仁会グループ新人フォローアップ研修会】（産業カウンセラー） ・9月15日【溪仁会グループ管理職のためのメンタルヘルス、ハラスメント労務管理研修会】（羽岡医師） ・9月21日、26日【コミ八雲ハラスメントセミナー】（産業カウンセラー） 【相談件数：述べ501件（うち新規相談116件）】	・メンタルヘルス不調者の軽減、メンタル傷病者の減少及び事業所の安全衛生管理状況把握による医療費の減少。	・専門職の活動や広報により、相談室は広く認知された。 ・労働安全衛生法による衛生管理及び事業所の管理職の理解や対応にそれぞれ差があるため、今後もラインケア教育やセルフケア教育活動の継続が必要である。	1	
加入者への意識づけ														
特定健康診査事業	3	被扶養者・任意継続者の特定健康診査	【目的】生活習慣病予防と健康意識の向上を図る。 【概要】全額健保組合負担、子宮がん検診、乳がん検診も健保組合が全額補助し受診勧奨をする。	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	931	対象者350名、受診者164名(前年度比+29名)、受診率46.86%	・5月、対象者の自宅宛てに受診券＋健診案内を発送した。 ・12月、溪仁会円山クリニックから受診者にクオカード2,000円を進呈する感謝企画が提案され、「受診勧奨キャンペーン」として、未受診者に対して、キャンペーンを実施した。	・被扶養者の健診受診率を向上するには、キャンペーン等の案内企画の継続が必要である。 ・事業主も情報提供を実施し、被保険者からの積極的な働きかけが必要である。	2	
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】メタボのリスクによる生活習慣の見直しや改善をサポートする。 【概要】該当者に利用券を発行し、全額健保組合負担で実施する。	被保険者被扶養者	全て	男女	35～74	基準該当者	242	①動機づけ支援対象者153名、受診者25名（前年度比+6名） ②積極的支援対象者115名、受診者7名(前年度比±0名) 計：受診者合計32名、実施率11.9%（前年度対+6名）	・平成29年12月、事業所と健保組合のコラボヘルス推進について、覚書及び確認書を取り交わした。 ・特定保健指導対象者の「利用券」は、健保組合と事業所担当者の情報連携により、事業所経由で対象被保険者に渡す体制となった。	・事業所側の産業医、衛生管理者、健診事務担当者として溪仁会円山クリニック保健師等が、実施に向けて積極的に打合せを開始した。 ・事業所側の勤務シフト調整や積極的な動きがさらに必要である。	2	
保健指導宣伝	5	機関紙の発行	【目的】健保組合の運営状況や医療費の適正化等の情報提供。 【概要】年2回、「けんぼだより」を発行し、健保組合の事業運営、法改正、健康・医療等の情報提供を実施する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	1,274	No.14号4,600部(平成29年8月)発行、No.15号4,800部(平成30年4月)発行	・被保険者等への情報提供や周知事項等を活性化するため、最低でも年4回（春夏秋冬）の発行を検討する。	・機関誌の内容、発行回数等を含め、被保険者への配付方法等の検討が必要である。	4	
	4,5	疾病予防資料「医療費のお知らせ」の発行	【目的】加入者への医療費コスト意識を高める。 【概要】医療費通知書を発行し、事業主経由で被保険者へ配付する。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	302	・平成30年2月(年1回)ハガキサイズでシール加工した医療費通知書「医療費のお知らせ」を発行	・年4回程度に分割して発行できれば、医療費コスト意識について、より啓蒙ができる。	・費用やシステム環境により、変更が難しいので要検討とする。	3	
	8	後発医薬品の差額通知の発行	【目的】医療費の抑制を推進する。 【概要】医療費の適正化情報提供をする。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	0	・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者や疾病等の抽出条件により発行 ※平成29年度の使用割合75.45%(前年度比+2.27%) 薬剤費割合50.71%(前年度比+3.01%)	①「後発医薬品差額通知」については、年2回疾病分類等の条件抽出により発行する。 ②ポスター等の啓蒙活動を継続する。	・一度「差額通知」を発行した被保険者に毎回発行すると苦情となるため、抽出条件の変更や隔年発行等の対応が必要である。	3	
	5	出産育児情報誌の配付	【目的】子育て支援と職場復帰支援をする。 【概要】出産された被保険者に育児情報誌を1年間配付する。	被保険者	全て	女性	18～74	全員	412	・出産された被保険者95名に、育児情報誌「赤ちゃんとママ」を1年間配付する。	・情報誌配付後の読者アンケート結果では、読みやすく、情報が分かり易い、役に立ったとの意見もあり好評である。	・「0歳～6歳までの転倒予防」冊子の配付や、被扶養者で出産された方も対象に配付できるように検討する。	5	

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費 (千円)	振り返り				注2) 評価
				資格	対象 事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因		
	8	家庭常備薬特別斡旋	【目的】健康管理の一助。 【概要】事業所単位で家庭常備薬特別斡旋申込書にて購入。(支払は申込者個人)	被保険者	全て	男女	18 ～ 74	全員	0	・年2回(5月、11月)実施 ①平成29年5月、購入者346名、購入額1,320(千円) ②平成29年11月、購入者356名、購入額1,276(千円)	・商品については、季節や要望により見直しを行い、家庭常備薬等を安価で提供し、セルフメディケーションを啓蒙する。	・毎回、同数程度の購入者がいることと、セルフメディケーション啓蒙のため継続する。	5	
	5	歯周病予防と喫煙対策キャンペーン	【目的】歯周病予防と喫煙による健康影響意識向上を図る。 【概要】歯科医療費や歯科疾患が多い事業所を抜粋し、職員に歯みがきセットを配付し、歯科医師や歯科衛生士が指導し、歯みがきを実践しアンケートを実施する。	被保険者	一部の事業所	男女	18 ～ 74	全員	181	①円山ハーティケアセンター(平成29年8月22日から1か月間実施、歯みがき実施者32名) ②きもべつ喜らめきの郷(平成29年9月27日から1か月間実施、歯みがき実施者25名) ③青葉ハーティケアセンター(平成29年10月12日から1か月間実施、歯みがき実施者32名)	・事業所に歯ブラシセットを配付するだけではなく、健保組合全体の医療費や事業所の医療費及び疾病等を説明する。 ・歯科衛生士による口腔ケアや歯周病予防、喫煙による影響のセミナーを実施することで健康と口腔ケアを日常生活で意識する啓蒙が重要である。	・被保険者全体に普及させる予算計上と歯みがきによる医療費減少効果測定に年数を要する。	4	
疾病 予 防	3	被保険者の年齢階層別「総合健診」の補助	【目的】年齢階層別に健診コースを設定し、健診データの管理、病気の早期発見及び早期治療をする。 【概要】35歳以上75歳未満の被保険者を対象に費用の一部を健保組合が補助する。	被保険者	全て	男女	35 ～ 74	全員	26,183	・Aコース(35～40歳未満)1人当たり8,100円補助、受診者数519名 ・Bコース(40～55歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数1,281名 ・Cコース(55～65歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数408名 ・Dコース(65～75歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数83名 ・合計2,291名	・年代別に健診コースを設定したことにより、生活習慣病等のデータ管理がしやすく、有所見者を把握しやすい。 ・C、Dコースは、喫煙者に胸部CT検査を追加、男性には前立腺がん血液検査を追加した。 ・Dコースは、女性に骨粗鬆症検査を追加した。	・浜仁会グループ総合健診として、年齢階層別に健診を実施し、前年度までの人間ドック補助を廃止したことに対して一部不満がある。 ・各病院で独自に実施していた職員健康診断と、浜仁会円山クリニックで総合健診を受診する場合の検査項目の比較等については、今後も要望や課題を抽出して見直しが必要である。	4	
	3	被保険者のがん検診の補助	【目的】がんの早期発見と早期予防を図る。 【概要】35歳以上75歳未満の被保険者を対象に各種がん検診費用の上限額を設定し健保組合が補助する。 (但し、直接契約の浜仁会円山クリニックは特別料金により全額健保補助)	被保険者	全て	男女	40 ～ 74	全員	6,686	・胸部CT検査(55～75歳未満の喫煙者のみ)、受診者数102名 ・前立腺腫瘍マーカー検査(55～75歳未満の男性のみ)受診者数147名 ・乳がん検診(40～75歳未満の女性)受診者数656名 ・子宮(頸部)がん検診(18～75歳未満の女性)、受診者数727名	・各種がんの早期発見のため、個人負担金なしとして、受診しやすい環境を整える。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、対象年齢を検討する。	4	
	3	被扶養者・任意継続者のがん検診	【目的】女性被扶養者・任意継続者のがん検診の早期発見と予防をする。 【概要】40歳以上75歳未満の女性被扶養者・任意継続者が、「総合健診」及び「特定健診」と同時に受診する場合のみ全額補助する。	被扶養者	全て	女性	40 ～ 74	基準該当者	843	・乳がん(マンモ、エコー)検診、受診者91名(前年度比+29名) ・子宮(頸部)がん検診、受診者89名(前年度比+20名)	・受診者負担の無料化を継続する。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、検討する。	2	
	3	被扶養者・任意継続者の総合健診	【目的】特定健診より詳しい健診を実施し、病気の早期発見、早期治療をする。 【概要】40歳以上75歳未満の被扶養者・任意継続者を対象に、費用の全額を健保組合が補助する。	被扶養者	全て	男女	40 ～ 74	基準該当者	1,958	・受診者150名(前年度比+29名)	・受診者負担の無料化を継続する。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、健診コース、健診機関等の検討する。	2	
	3	奥さま健診	【目的】被扶養者である女性配偶者の健康管理に役立てる。 【概要】18～39歳までを対象に、健診+婦人科がん検診費用を全額補助する。	被扶養者	全て	女性	18 ～ 39	基準該当者	1,811	・受診者75名(前年度比-5名) ・乳がん(マンモ、エコー)検診受診者64名(前年度比+13名) ・子宮(頸部)がん検診受診者61名(前年度比-5名)	・平成29年5月、対象者の自宅宛てに「受診券」と健診案内を発送した。 ・平成29年12月、未受診者に平成30年2月末までの受診期間を3月末まで延長する案内と受診勧奨ハガキを発送した。	・今後40歳の特定健診対象者になるため、自らの健康管理と家族の生活習慣改善意識向上を図る。	2	
	4	健診異常値放置者対策受診勧奨事業	【目的】健診受診後、異常値を放置している被保険者および被扶養者に対して、早期発見、早期治療、生活習慣の改善の勧奨を行う。 【概要】被保険者の総合健診受診者、被扶養者の特定健診、奥さま健診受診者のうち、「C判定該当者」に受診アンケート等の受診勧奨通知を実施する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18 ～ 74	基準該当者	0	平成29年度は、浜仁会円山クリニックに結果を確認した。 【特徴】腹部エコー(受診者30名、未受診者11名)、乳がん検診(受診者68名、未受診者13名)、血中脂質(受診者44名、未受診者109名)	・健診結果C判定では、腫瘍疑い、画像診断結果等は該当者が自ら受診している。 ・一方、血中脂質等の生活習慣に関わる受診は少ない状況にある。 ・生活習慣が及ぼす疾病についての研修や啓蒙が重要である。	【事業主とのコラボヘルス】が重要。事業主側の労働安全衛生法による健診データ管理、被保険者への積極的な健診後の事後指導が必要である。	2	

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
体育奨励	8	健康づくり事業への補助	【目的】 加入事業所職員の健康増進とコミュニケーションを図る。 【概要】 浜仁会グループが主催する各運動行事等に一部補助を実施する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	159	①平成29年10月9日、【浜仁会グループ主催ソフトボール大会】参加者14チーム、226名に参加費等91千円を補助。 ②【ウォーキングキャンペーン】今年度初の実施で、300名限定で2ヶ月間のウォーキングを広報したが、参加64名（歩数登録者58名）、合計歩数5億8938万8472歩。 サイト初期導入費用54千円、参加費1人1ヶ月100円	・参加者に健保組合からの補助を強調する。 ・誰でも簡単に実施できるウォーキングによる健康増進を意識付ける企画を継続する。 ・事業主とのコラボによる啓発活動も健康増進に必要である。	・ウォーキングキャンペーンは、当初は当組合独自に開催する準備をしていたが、実施時期9月に急遽、健保連がウォーキング歩数により、熊本地震の被災者への復興支援の寄付金として、「社会貢献型インセンティブ」モデル事業が打ち出された。 ・上記に参加することにより、サイト初期導入費用及び参加費が半額となるという利点もあり共同参加した。 ・しかし、参加した被保険者からは、復興支援は理解できるが、目に見える形でのインセンティブや復興貢献歩数が分かりにくいという意見があった。	3

個別の事業

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他
 注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
労働安全衛生法による定期健康診断	職員の健康診断による健康管理	被保険者	男女	18～74	・労働安全衛生法による定期健康診断、特定業務従事者（夜勤者、電離放射線等）の健診を実施している。	・平成29年12月28日より、健診受診後の健診結果の把握と要再検査者・要精密検査者のフォローアップ、特定保健指導の実施についても、健保組合と事業所のコラボヘルスの公表により開始した。	・全ての事業所で定期健康診断及び年齢階層別の「総合健診」等を実施しているが、健診後の事後指導及び特定保健指導等の実施においては、更に積極的に今後の体制作りが必要である。	有

STEP 1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		総合健診・特定健診・特定保健指・各種がん検診・奥さま健診の状況	特定健診分析	-
イ		年度別 疾病分類別傷病分配医療費及び生活習慣病医療費の経年推移	医療費・患者数分析	-
ウ		前期高齢者医療費分析	医療費・患者数分析	-
エ		歯科医療費と保健事業の分析・対策	健康リスク分析	-
オ		健康スコアリングレポートからみる特定保健指導の実施率と問診回答による医療費概要と生活習慣概要	特定保健指導分析	-
カ		年齢階層別加入者状況及び傷病手当金、後発医薬品使用率の状況	後発医薬品分析	-

キ



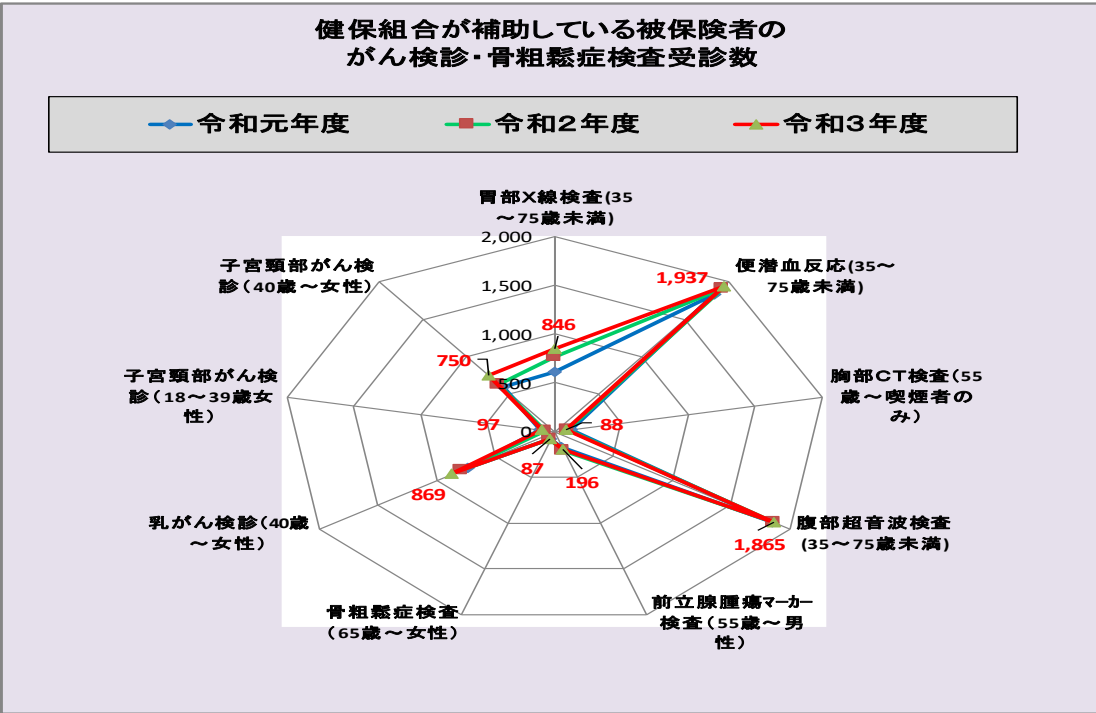
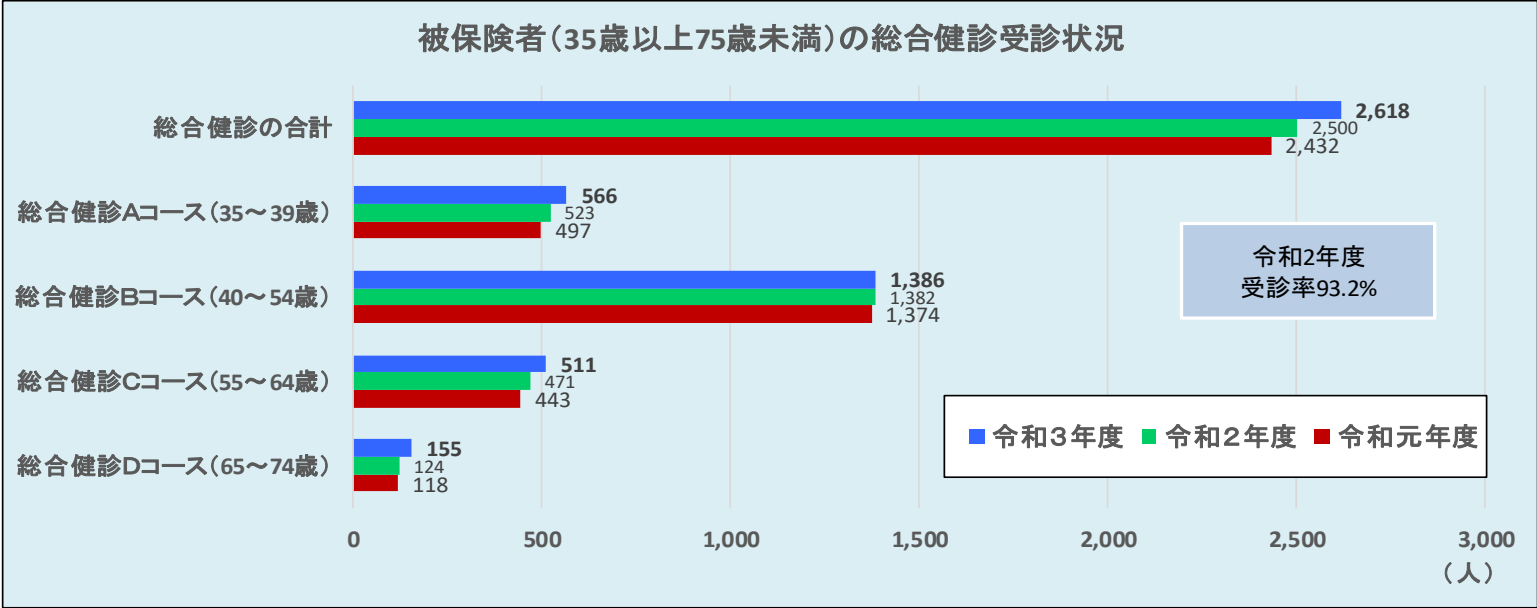
健康増進ダイエツプログラムの実践

健康リスク分析

-

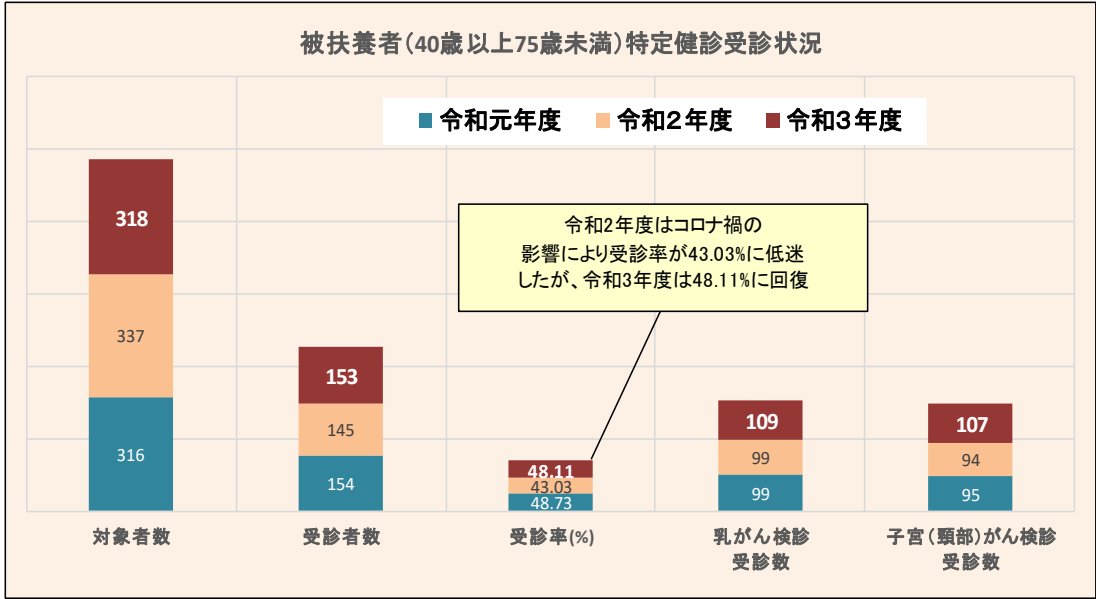
令和3年度 各種健診・がん検診・特定保健指導の実施状況

図表・ア



特定保健指導(35～75歳未満の加入者)の実施状況

	令和元年度			令和2年度			令和3年度 (R4/6月現在)		
	対象者数	評価終了実施者数	実施率	対象者数	評価終了実施者数	実施率	対象者数	評価終了実施者数	実施率
動機づけ支援	146	48	32.9	166	152	91.6	168	100	59.5
再掲 (35～39歳)	29	7	24.1	27	23	85.2	40	20	50.0
積極的支援	115	48	41.7	136	127	93.4	113	68	60.2
再掲 (35～39歳)	24	7	29.2	24	21	87.5	30	17	56.7
合計	261	96	36.8	302	279	92.4	281	168	59.8
合計(国への報告 40歳以上75歳未満)	232	61	26.3	251	235	93.6	211	131	62.1



被保険者の生活習慣病医療費分析

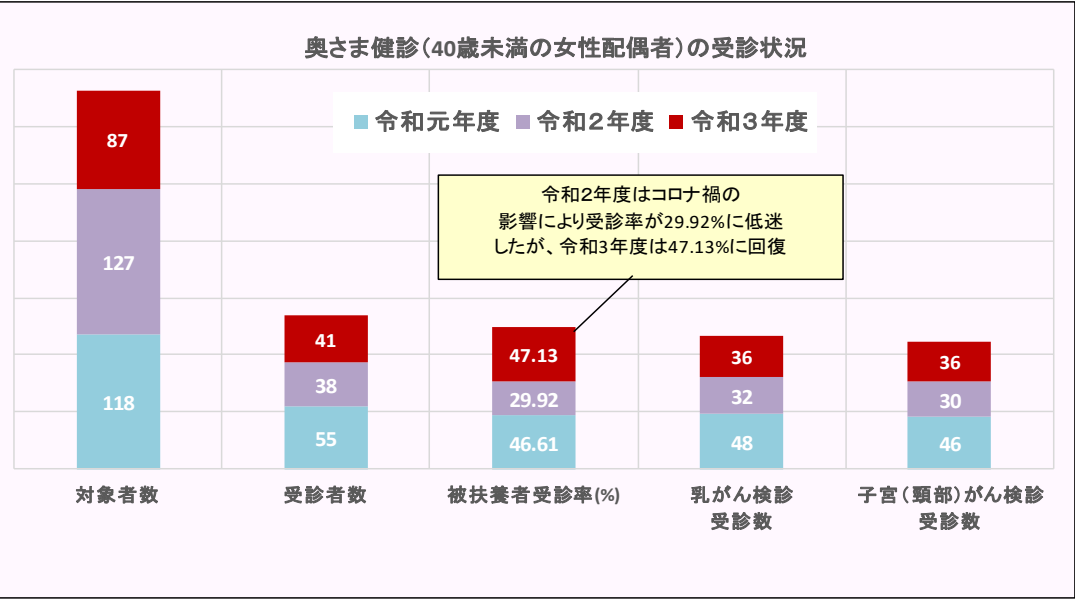
【医療費3要素】

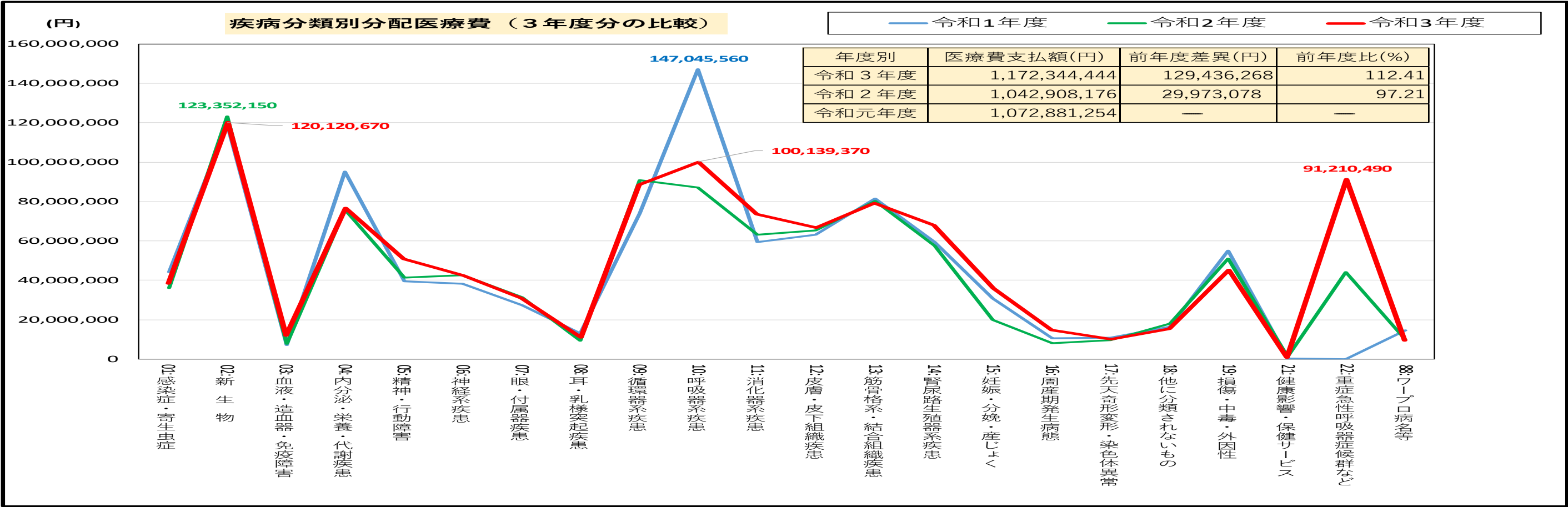
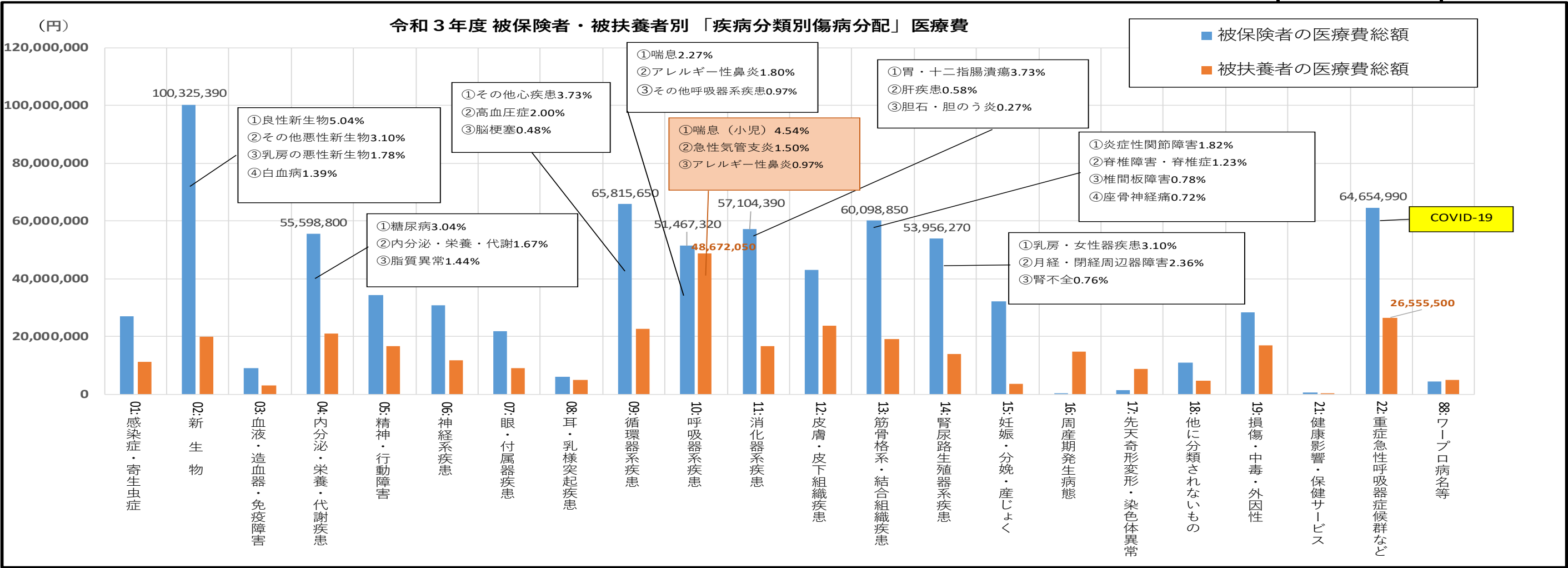
●1人当たり医療費(医療費総額/加入者数) =
①受診率(レセプト件数/加入者数) ×
②1件当たり日数(日数/レセプト件数) ×
③1日あたり医療費(医療費総額/日数)

※①受診率は加入者意識や感染症流行等の要因に依存しやすく、②1件当たり日数は患者の受診や疾病の種類といった受診者の要因と、診療行為による要因の両方、③1日あたり医療費は医療行為の要因を受けると考えられており、医療費分析の切り口です。

[診療年月計] × [強制+任継計] × [医科計] × [男女計] × [被保険者]

生活習慣病		強制+任継計				
		医療費総額(円)	1人当たり医療費(円)	受診率(%)	1件当たり日数	1日当たり医療費(円)
糖尿病		20,778,780	4,301	408.8181	1.69	6,236
再掲	インスリン治療	5,503,440	1,139	31.0495	1.35	27,111
	腎障害	74,710	15	19.8717	1.26	617
	網膜症	69,310	14	10.1428	1.39	1,019
	神経障害	42,630	9	3.1049	2.67	1,066
脳血管障害		2,158,650	447	33.1194	1.36	9,902
虚血性心疾患		3,326,850	689	74.5187	1.49	6,184
動脈閉塞		0	0	0.0000	—	—
高血圧症		14,597,240	3,022	621.6104	1.45	3,360
高尿酸血症		1,302,340	270	91.6994	1.73	1,702
高脂血症		10,950,810	2,267	566.9634	1.45	2,765
肝機能障害		327,930	68	84.0406	1.59	508
高血圧性腎臓障害		25,080	5	0.6210	1.33	6,270
人工透析		6,103,310	1,263	2.8980	12.07	36,114
再掲	糖尿病	460,750	95	2.8980	12.07	2,726
	高血圧	527,920	109	2.6910	12.23	3,320



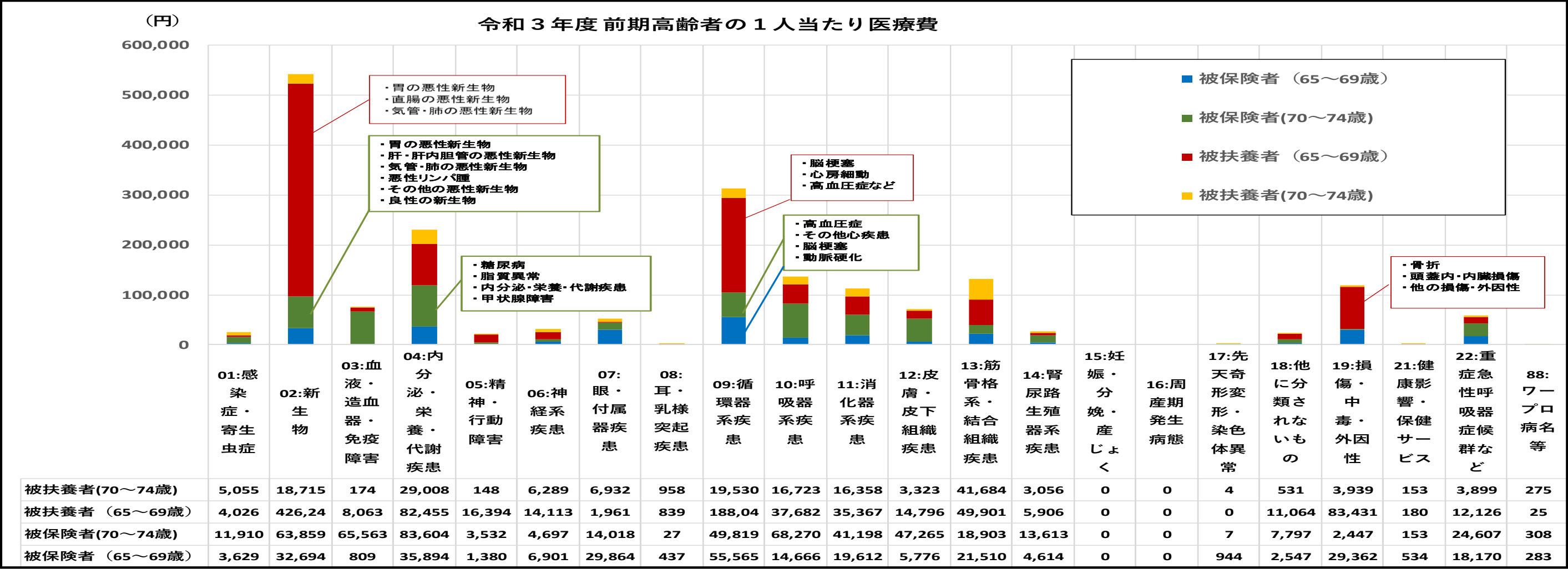
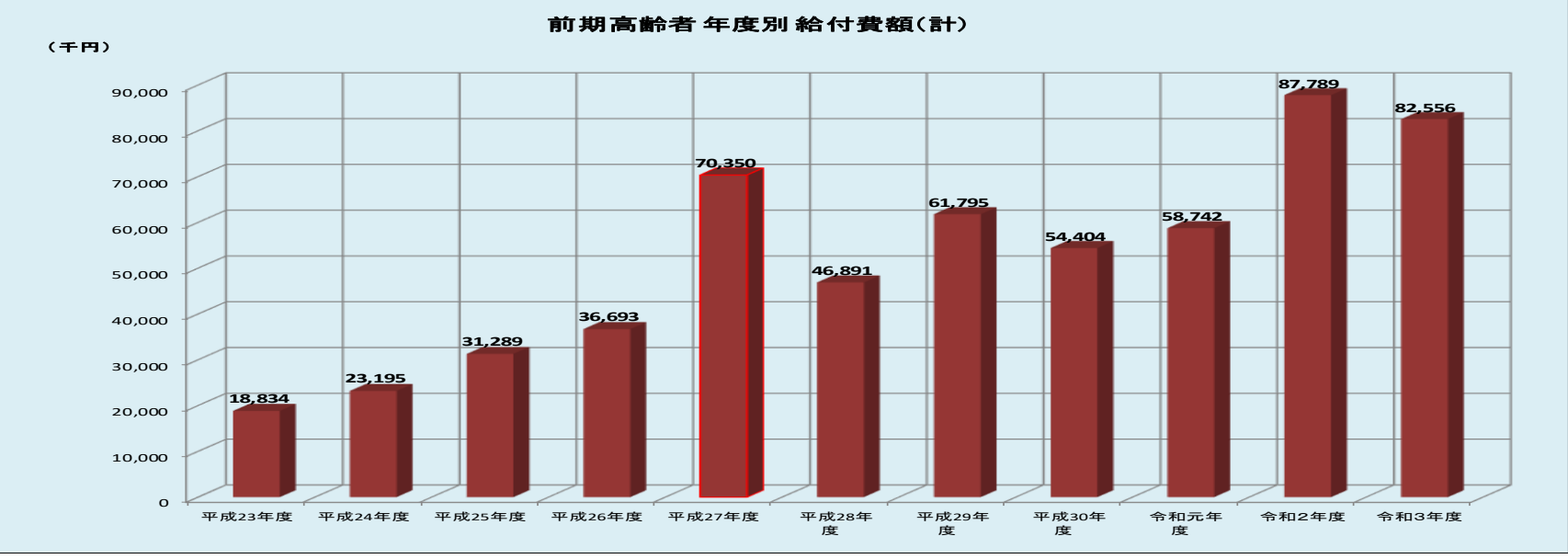
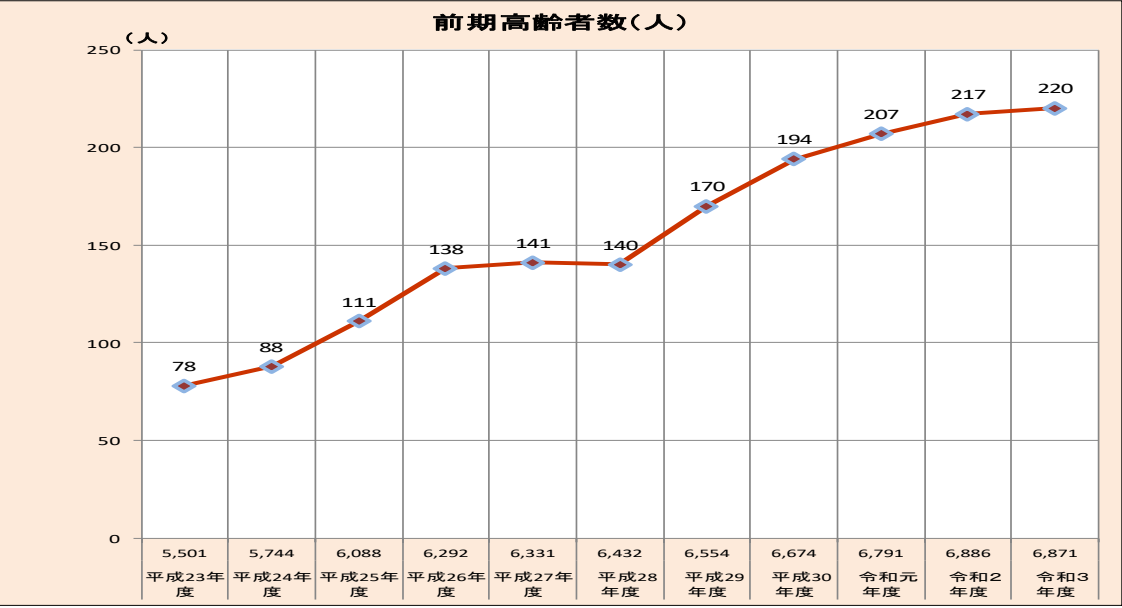


加入者数・前期高齢者数(単位:人) 給付費額「現物給付額・現金給付額」(単位:円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加入者数	5,501	5,744	6,088	6,292	6,331	6,432	6,554	6,674	6,791	6,886	6,871
前期高齢者数	78	88	111	138	141	140	170	194	207	217	220
現物給付額	18,714,681	23,031,123	31,112,263	36,274,612	69,389,217	45,957,582	61,181,650	53,142,871	57,984,717	85,681,760	79,400,198
現金給付額	119,097	163,581	176,280	418,105	961,274	933,589	613,726	1,260,812	756,881	2,106,831	3,155,402
給付費額(計)	18,833,778	23,194,704	31,288,543	36,692,717	70,350,491	46,891,171	61,795,376	54,403,683	58,741,598	87,788,591	82,555,600
前期・1人当たり医療費	241,459	263,576	281,879	265,889	498,940	334,937	363,502	280,431	283,776	404,556	375,253

R4/3/末現在

令和3年度	前期高齢者(65歳以上75歳未満)		
(単位:人)	男	女	計
被保険者	80	80	160
被扶養者	6	54	60
計	86	134	220
前期高齢者(被保険者)			
(単位:人)	男	女	計
医療法人	39	40	79
社福法人	35	30	65
福生会・株式	0	3	3
任継	6	7	13
計	80	80	160
前期高齢者(被扶養者)			
(単位:人)	男	女	計
医療法人	5	31	36
社福法人	1	18	19
福生会・株式	0	0	0
任継	0	5	5
計	6	54	60

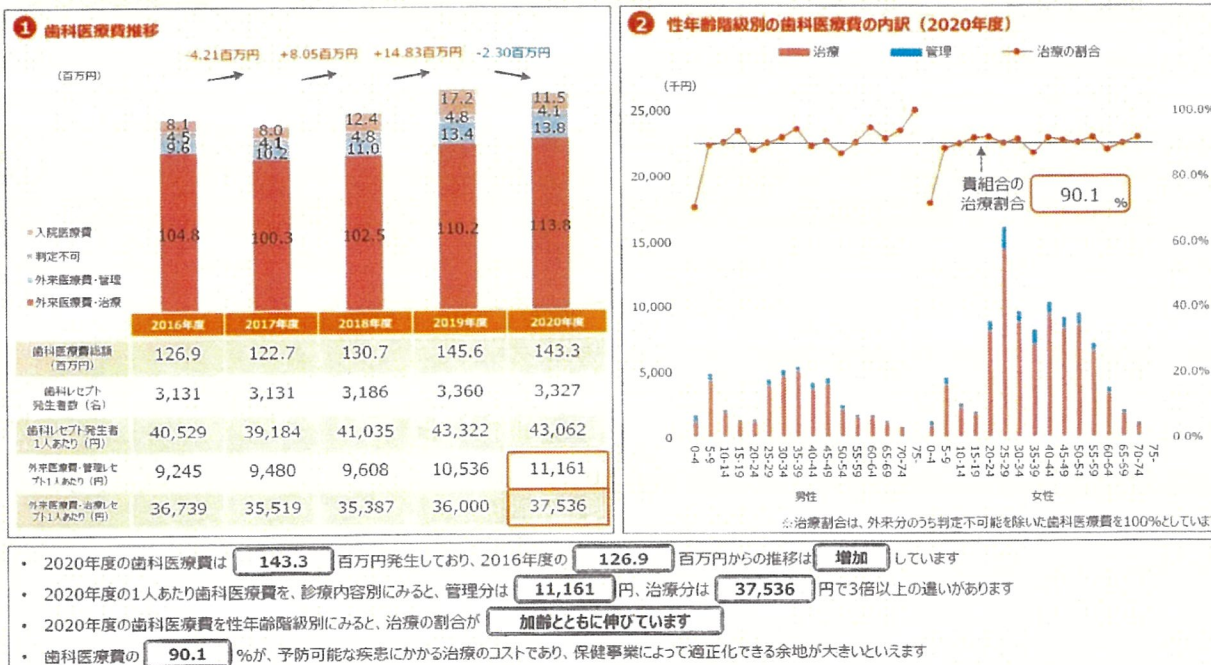


令和3年度に分析した歯科医療費の状況及び歯科保健事業について

図表・工

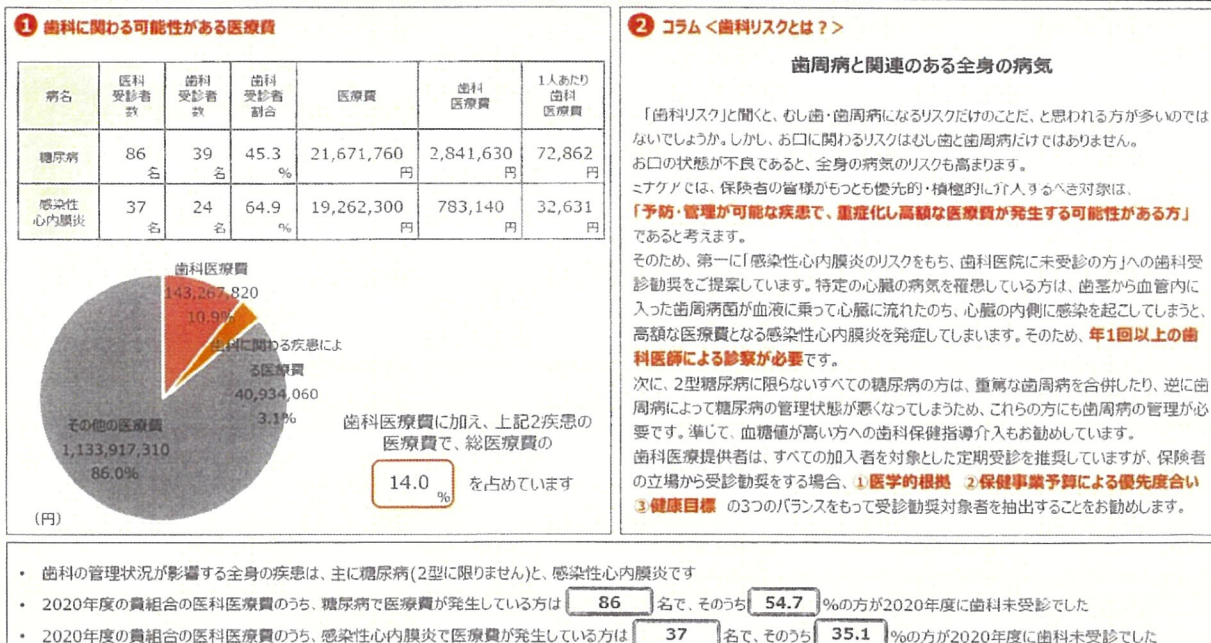
■ 歯科医療費の状況

歯科医療費は、そのほとんどがむし歯と歯周病類での外来診療分です。
 歯科レセプトを診療内容別に「管理」と「治療」に分解して解析しています。
 治療分を抑え管理分を増やすことで、歯科医療費の適正化が可能です。



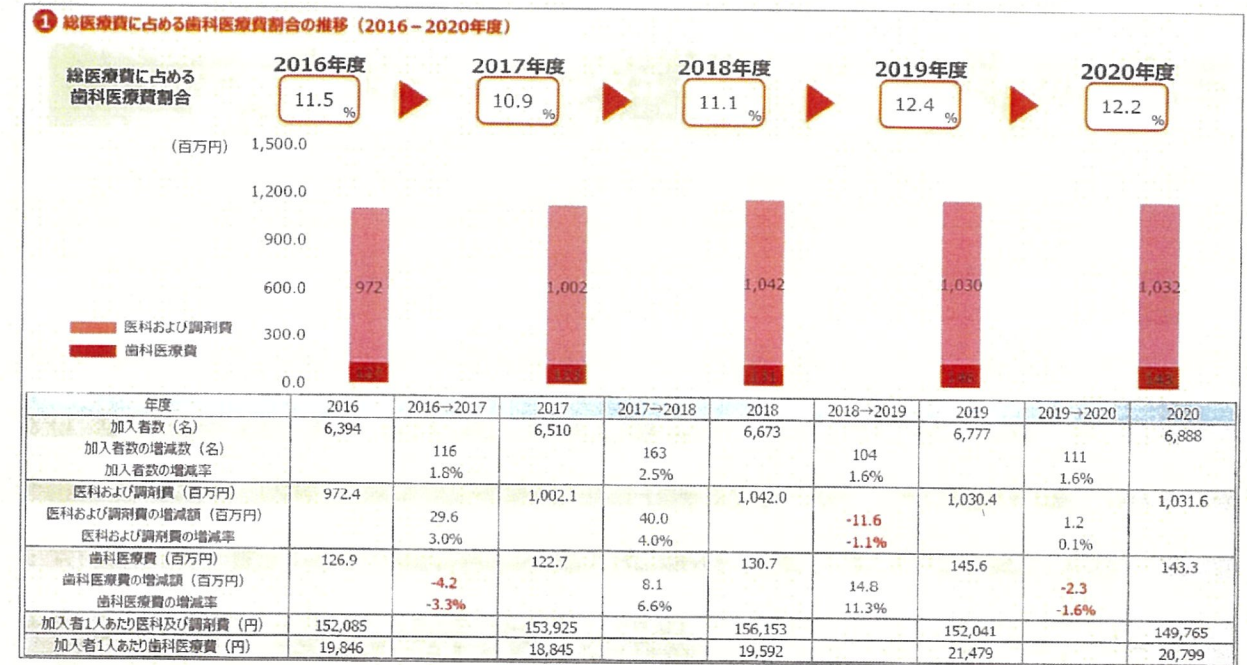
歯科に関わる疾患を持つ方の医療費状況

歯科に関わる疾患は研究レベルでは多岐にわたりますが、保健事業としての介入が必要です。



総医療費に占める歯科医療費の状況

総医療費に占める歯科医療費の割合の増減を示しています。歯科医療費は総医療費の12.2%を占めています。また、加入者1人あたりの歯科医療費は、加入者1人あたりの医科及び調剤費の約7分の1であることがわかります



歯科に関わる全てのデータから導かれる、受診勧奨による早期治療実施、健康増進による医療費適正化施策を両輪で回すことを継続して、コストだった歯科医療費を健康投資に転換します。

歯科保健事業内容	対象者	介入方法
①糖尿病・心疾患が重症化する可能性がある方へ歯科受診勧奨 糖尿病・心疾患は歯科疾患により重症化する可能性があります。お口の中の状態に関わらず、定期的な歯科医師による診察が必要です	2020年度に糖尿病・心疾患で医科受診あり・歯科受診なし 179名	組合からハガキ
②通院中断の可能性のある方へ継続受診フォロー 型取り後に7か月以上、受診が確認できない方です。治療途中で長期間放置すると、被せ物の作り直しだけでなく、再治療や重症化、さらには重複受診につながる可能性があります	2020年度に7か月以上通院中断者 1名	組合から電話・手紙
③セルフケアに多くの不足がある方へ歯科検診・歯科受診勧奨 対面での指導が必要です。すでに発症している可能性が高いため、歯科検診と個別指導の実施をご検討ください。歯科医院への受診勧奨の場合は、弊社ではかきをご用意しています	デンタルIQチェックのリスク判定の結果が「高リスク」の方 27名	受診勧奨ハガキ
④血糖リスクを持ち、歯科未受診の方へ個別指導・講習会 歯周病を発症しやすく、また歯周病の治療がHbA1cのコントロールに効果的であるといわれています。歯科保健事業者への委託や、特定保健指導面談時の歯科指導をご検討ください	健診で血糖受診勧奨レベル以上で、歯科未受診の方 51名	歯科衛生士・業者等からの介入(指導)
⑤セルフケアに一部不足がある方へセミナー・情報提供 歯科リテラシー向上のため、集団でのセミナー実施や、情報提供をお勧めします。歯科保健事業者によるセミナー実施の際は、デンタルIQチェックのリスク結果に基づいた内容設定をお勧めします	デンタルIQチェックのリスク判定の結果が「中リスク」の方 117名	
⑥HPや季刊誌による情報提供 歯科リテラシー向上のため、リスクのない方へも要する情報提供の実施をお勧めします。季刊誌等への記事文章をご要望の際はご相談ください	デンタルIQチェックのリスク判定の結果が「低リスク」「リスクなし」の方 161名	
⑦職場環境の整備 昼食後の歯磨きを推奨するために、歯磨き推奨時間の設定、歯ブラシ保管棚の設置等が有効です。ほかにも、社内で販売する清涼飲料水の砂糖含有量の表示や、勤務中の間食可能時間の設定、さらには勤務中の食生活の改善を防ぐためのマナーや体操指導の導入をお勧めします		

浜仁会健康保険組合 健康スコアリングレポート

2021年度版（2019年度実績分）（厚生労働省・日本健康医会議・経済産業省）

図表・オ

貴健保組合の予防・健康づくりの取組状況と健康状況の概要

【貴組合の特定健診・特定保健指導の実施状況】

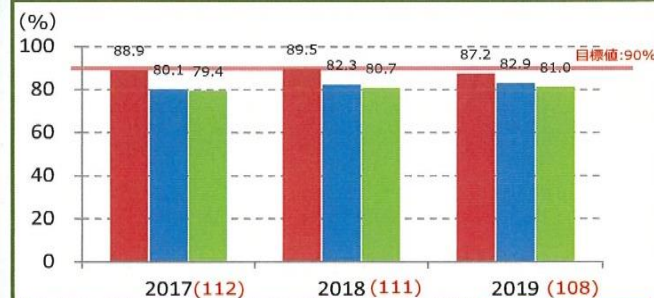
特定健診・特定保健指導



単一	組合順位	339位 / 1,113組合
全組合順位		397位 / 1,366組合

特定健診の実施率

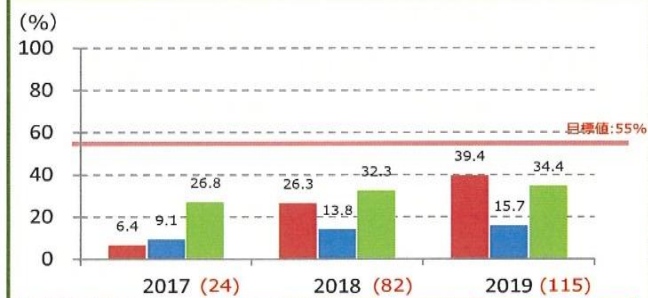
1ランクUPまで（*1）あと44人



特定健診の実施率	2017	2018	2019
貴組合	88.9%	89.5%	87.2%
業態平均	80.1%	82.3%	82.9%
単一組合平均	79.4%	80.7%	81.0%

特定保健指導の実施率

1ランクUPまで（*1）あと27人



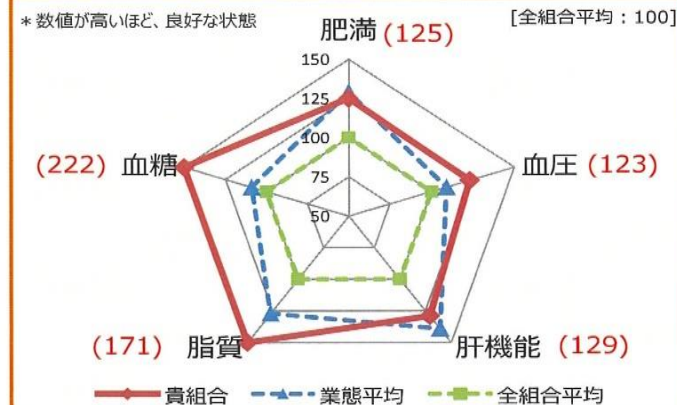
特定保健指導の実施率	2017	2018	2019
貴組合	6.4%	26.3%	39.4%
業態平均	9.1%	13.8%	15.7%
単一組合平均	26.8%	32.3%	34.4%

※ 目標値は、第3期（2018～2023年度）特定健康診査等実施計画期間における保険者種別目標。
 ※ 順位は、保険者種別（単一・総合）目標の達成率の高い順にランキング。
 ※ （ ）内の数値は、単一組合平均を100とした際の貴組合の相対値。

（*1）"ランクUP"は、5段階評価のランクを1つ上げるための目安（実施人数）を記載

【貴組合の健康状況】 生活習慣病リスク保有者の割合

健康状況



リスク	良好	中央値と同程度	不良
肥満リスク	😊	😊	😞
血圧リスク	😊	😊	😞
肝機能リスク	😊	😊	😞
脂質リスク	😊	😊	😞
血糖リスク	😊	😊	😞

※ 2019年度に特定健診を受診した者のみのデータを集計。

【参考】若年層からの健康づくりへの取組が大事！

近年、30歳代の肥満者の割合は増加の一途をたどっています。なるべく早い段階から健康づくりに取り組むことが重要です。

出典：国民健康・栄養調査（平成24～令和元年）より3年間の移動平均にて作成



貴健保組合の医療費概要

【貴組合の医療費の状況】 1人あたり医療費と性・年齢補正後標準医療費の推移



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1人あたり医療費	167,868円	166,786円	166,770円	169,692円	169,746円
性・年齢補正後標準医療費	138,326円	137,002円	142,076円	143,899円	147,316円

【貴組合の1人あたり医療費（2019年度）】

貴組合	性・年齢補正後標準医療費	性・年齢補正後組合差指数
169,746円	147,316円	1.15

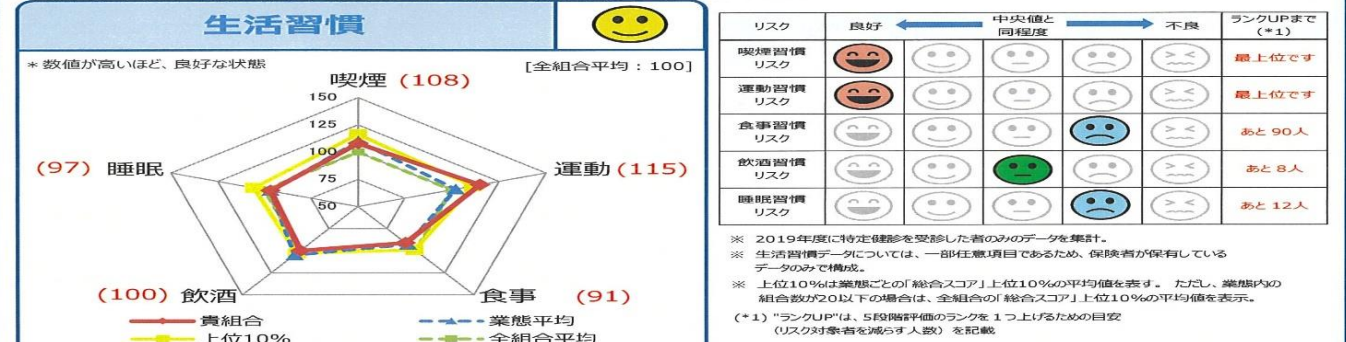
参考：貴組合の男女別・年代別1人あたり医療費（2019年度）

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代～
貴組合	161,653円	173,759円	129,302円	141,251円	191,785円	249,297円	317,061円
業態平均	168,285円	163,228円	101,899円	136,671円	160,293円	227,828円	332,320円
全組合平均	152,833円	158,847円	82,134円	111,867円	141,813円	217,368円	333,391円

※ 性・年齢補正後組合差指数とは、医療費の組合差を表す指標として、1人あたり医療費について、加入者の性・年齢構成の相違分を補正し、全組合平均を1として指数化したもの。指数が1より高いほど、全組合平均と比較して性・年齢補正後の医療費が高い傾向にあることを示す。具体的な算出方法は、参考資料「各指標の算出方法」参照。

貴健保組合の生活習慣

【貴組合の生活習慣】 適正な生活習慣を有する者の割合



健康状況の経年変化	2017	2018	2019
肥満	122	124	125
血圧	116	123	123
肝機能	139	133	129
脂質	159	154	171
血糖	227	211	222
生活習慣の経年変化	2017	2018	2019
喫煙	107	108	108
運動	95	102	115
食事	90	86	91
飲酒	105	107	100
睡眠	103	106	97

【参考】座りすぎは死亡リスクが高まる！

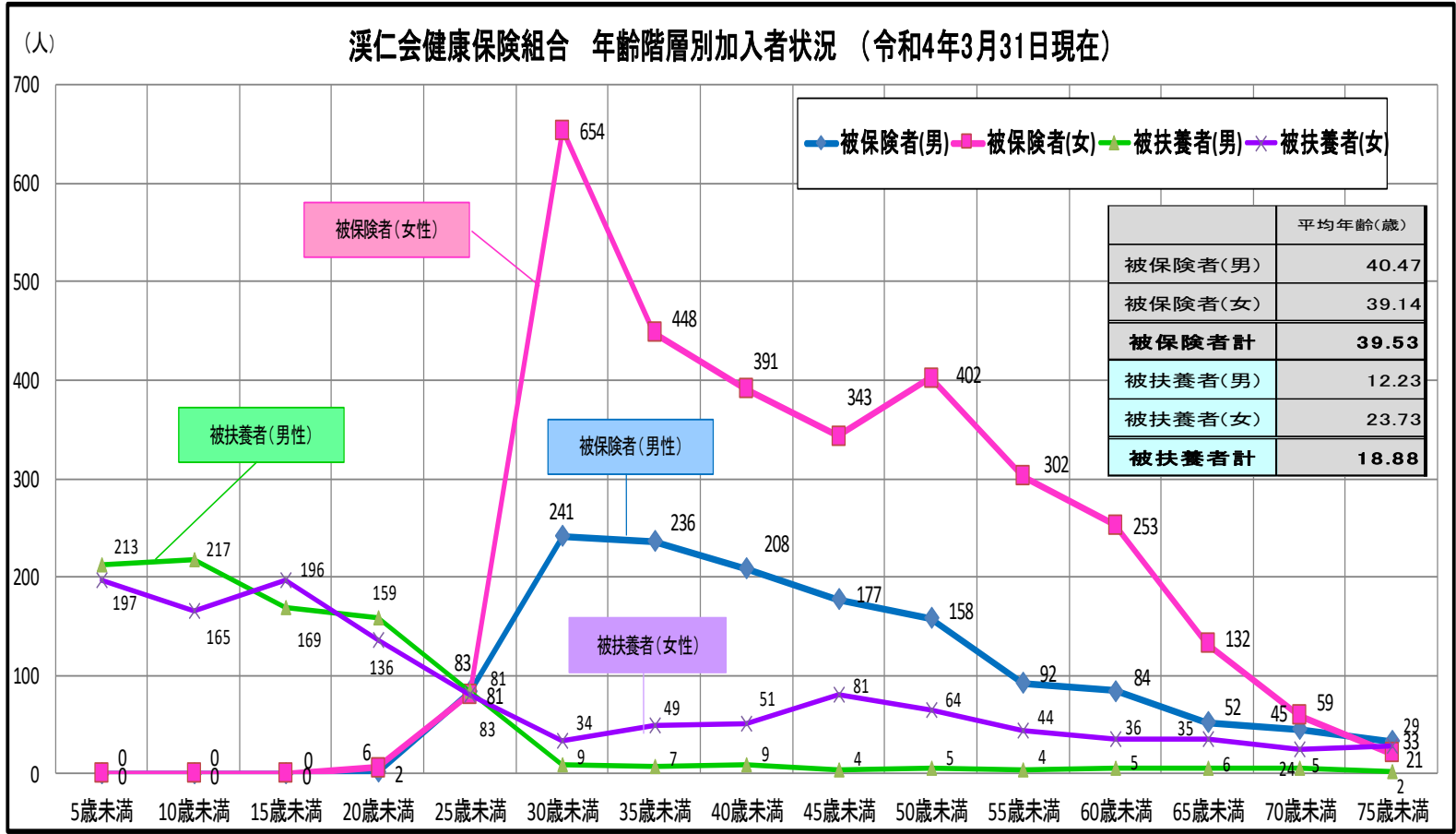
日中の座位時間が2時間増えるごとに死亡リスクが15%高まると言われています。糖尿病の人の場合は27%も高まると言われています。新型コロナウイルス感染拡大によりテレワークとなっている場合でも、無理せず少しずつ体を動かす機会を増やしていきましょう。

出典：京都府立医科大学 Effect of Underlying Cardiometabolic Diseases on the Association Between Sedentary Time and All-Cause Mortality in a Large Japanese Population: A Cohort Analysis Based on the J-MICC Study, スポーツ「Withコロナ時代に運動不足による健康二次被害を予防するために」



全健保組合平均を100とした際の各組合の相対値を高い順に5等分し、「良好」から「不良」の5段階で表記しています。

（注）【本レポートにおけるデータ対象】
 ・医療費：全加入者 / 特定健診（健康状況・生活習慣）：40歳～74歳。
 ・健康状況・生活習慣・医療費は、対象となる加入者数50名未満の場合データを非表示。
 ・合併のあった組合については、合併前の各組合のデータを合併して表示。



後発医薬品使用率（令和4年2月診療集計表）

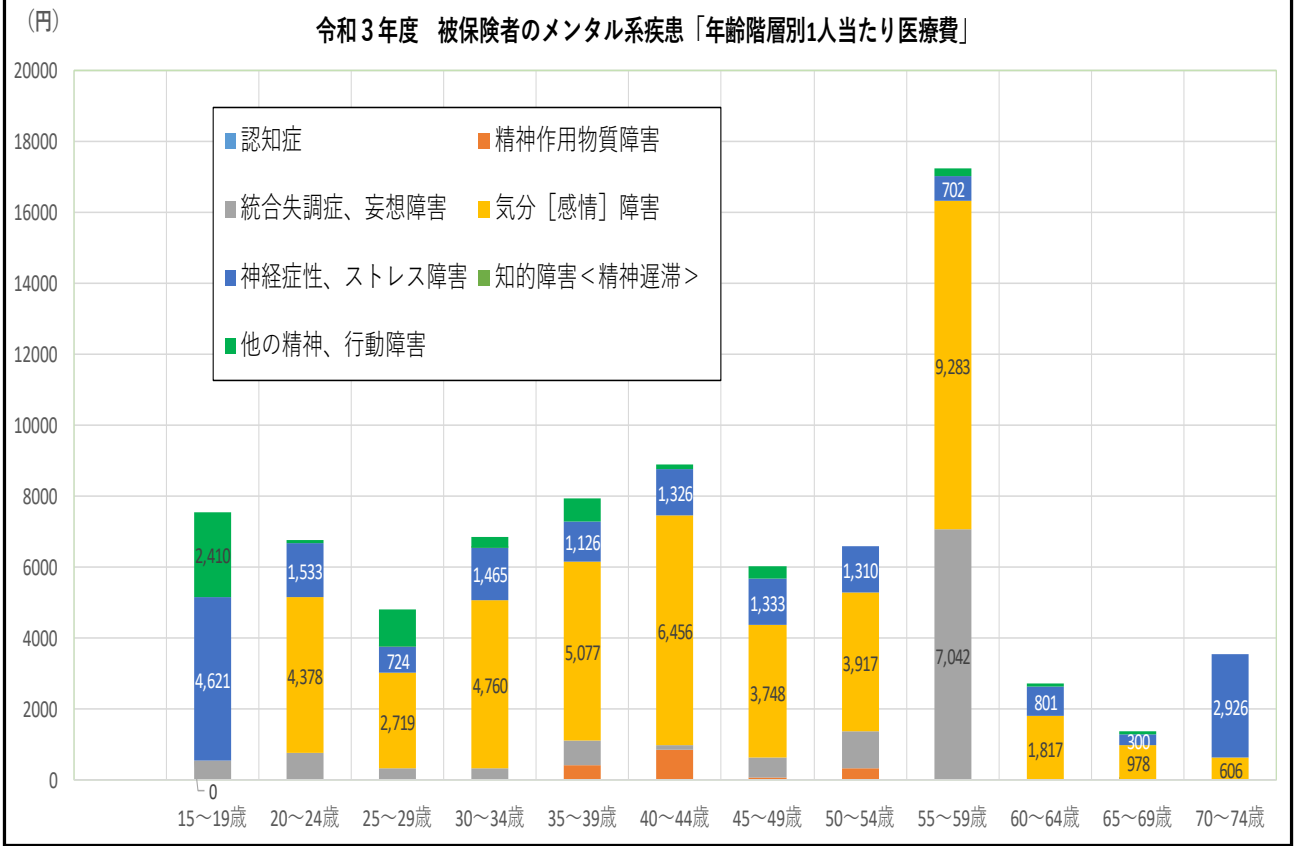
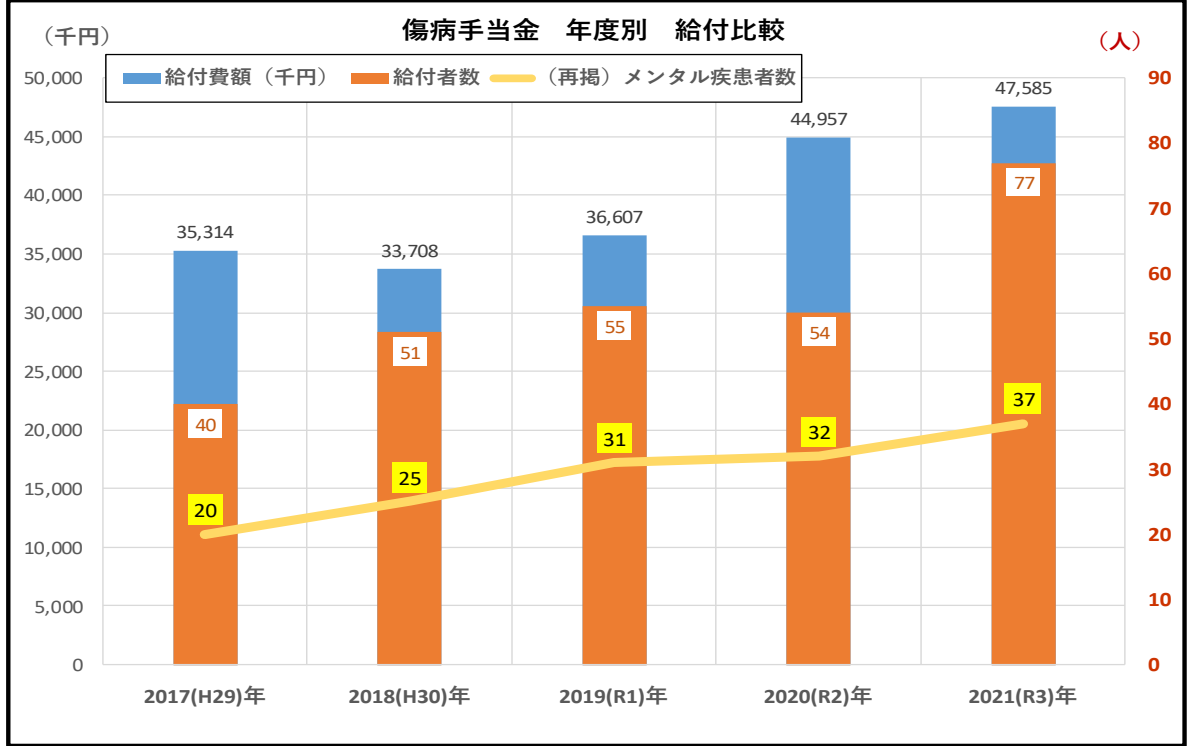
後発医薬品の使用率									
年齢階層	合計			被保険者			被扶養者		
	件数	使用割合	薬剤費割合	件数	使用割合	薬剤費割合	件数	使用割合	薬剤費割合
0～4歳	127	90.20%	69.51%	—	—	—	127	90.20%	69.51%
5～9歳	58	79.48%	34.61%	—	—	—	58	79.48%	34.61%
10～14歳	33	84.03%	53.31%	—	—	—	33	84.03%	53.31%
15～19歳	24	69.51%	44.60%	3	72.37%	40.88%	21	68.88%	44.87%
20～24歳	90	77.63%	68.96%	75	77.34%	72.36%	15	79.41%	54.33%
25～29歳	134	88.63%	83.11%	125	94.50%	91.32%	9	41.79%	29.57%
30～34歳	141	93.12%	50.13%	130	92.64%	47.51%	11	96.96%	98.39%
35～39歳	124	91.59%	74.98%	107	92.87%	74.03%	17	86.02%	80.99%
40～44歳	105	81.19%	66.94%	92	81.75%	64.74%	13	76.59%	85.34%
45～49歳	121	87.05%	74.66%	102	90.08%	79.03%	19	75.62%	55.79%
50～54歳	92	86.09%	72.90%	81	88.58%	74.62%	11	57.18%	62.43%
55～59歳	109	81.88%	55.12%	100	82.15%	55.16%	9	78.18%	54.74%
60～64歳	50	74.57%	62.24%	39	79.90%	65.15%	11	49.24%	47.52%
65～69歳	46	86.42%	69.74%	35	87.26%	71.70%	11	83.65%	63.03%
70～74歳	22	73.24%	40.74%	14	76.86%	37.24%	8	67.71%	47.80%
75歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,276	85.02%	63.85%	903	87.07%	66.12%	373	79.52%	56.62%

後発医薬品使用割合		後発医薬品薬剤費割合	
後発医薬品の数量		後発医薬品の薬剤費	
×100.00%		×100.00%	
後発医薬品の数量 ÷ 後発医薬品の数量 + 後発医薬品のある先発医薬品の数量		後発医薬品の薬剤費 ÷ 後発医薬品の薬剤費 + 後発医薬品のある先発医薬品の薬剤費	

傷病手当金 年度別給付状況

年度	給付費額（千円）	給付者数	（再掲）メンタル疾患者数	メンタル疾患割合(%)
2017(H29)年	35,314	40	20	50.0
2018(H30)年	33,708	51	25	49.0
2019(R1)年	36,607	55	31	56.4
2020(R2)年	44,957	54	32	59.3
2021(R3)年	47,585	77	37	48.1

※資格喪失者のうち、64.8%がメンタル系疾患



【浜仁会円山クリニックへの事業委託】

2021年「健康増進（ダイエット）プログラム」報告書

企業名	浜仁会健康保険組合「健康増進（ダイエット）プログラム」
場 所	浜仁会円山クリニック 地下フィットネスルーム
日 程	初 回：2021年11月25日（木）、27日（土）、30日（火）18：30～20：00 1回目セミナー：2021年12月17日（金）18：30～20：00 2回目セミナー：2022年1月18日（火）18：30～20：00 最 終：2022年2月22日（火）、23日（水）18：30～20：00
参加人数	男性3名、女性17名【計20名】 初 回：25日7名 27日5名 30日8名 1回目セミナー：6名 2回目セミナー：5名 最 終：22日8名 23日7名 その他の日に1名 目 標 達 成 者：9名（男性1名、女性8名）
事業開始、募集の流れ	浜仁会健康保険組合より K@NET「グループのお知らせ」にアップ。 円山クリニックにて10月19日～30日までをメールで募集を受け付けた。 定員20名を超えた場合は抽選にて参加者を確定する予定であったが、申込み人数は20名で抽選を行うことはなかった。

プログラムの流れ	初 回：身体測定（身長、体重、体脂肪率、腹囲） 体力測定（心配持久力、筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、敏捷性、瞬発力） 目標設定（初回体重よりマイナス3%） 歩数・体重記録（毎日記録し毎月提出） 栄養・運動講話 1回目セミナー：身体測定、栄養・運動講話、運動実践 2回目セミナー：身体測定、栄養・運動講話、運動実践 最 終：身体測定、体力測定、個人ヒヤリング
担当者	管理栄養士：佐藤きぬ子、三並理瑛子 健康運動指導士：鈴木雄人

参加者のアンケート結果（抜粋）

- ・小脳梗塞の手術後の影響もあり、あまり運動が出来ず、自分には少しハードな印象を受けた。
- ・だんだん体力がついてきたことを実感できた。
- ・食事をとるタイミングが少し改善できた。
- ・プログラム前後の体力測定が運動のモチベーションになった。
- ・栄養指導を受けたことが無かったので自分の食事を見直すきっかけになった。
- ・健康への意識を損なわせないようにスタッフが良い声掛けをしていると感じ、自分も日々の仕事に活かしていきたい。
- ・運動をこれからも続けていこうと思う。
- ・始める前より体力が持続するようになった気がする。
- ・活動量を気にしながら生活ができ、歩くだけでどのくらいのカロリーが減るのか見えてきた。
- ・食べながら運動して、健康的にダイエットをすすめていける内容であったことが印象的だった。
- ・励ましてもらえた。
- ・雪の影響や業務の都合で思うようにトレーニングに通えず、3ヵ月があっという間に過ぎてしまったのが残念だった。
- ・マシントレーニングの設定方法が自分ではわからなかったのが、指導してもらえて良かった。

事業のまとめ、考察

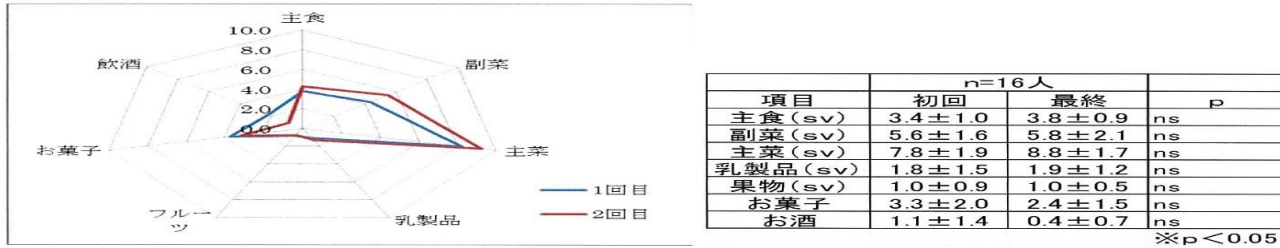
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は1クールのみの開催となった。
- ・コロナ禍の開催でも定員の20名の申し込みはあったので、事業に対するニーズは高いと感じた。
- ・申込等をメールで行うことを初めて試みたが、問題なく円滑に行えたので、次回以降もメールを活用することを継続したいと考える。
- ・体重は統計上有意な減少となったが、目標達成者が9名で全体の45%と少なかった。
- ・コロナ禍であり、かつ歴史的な大雪の影響でフィットネス利用者が少なく、利用頻度も低かったことが要因であると考えられる。
- ・実際、参加者からも「渋滞で移動できない」「交通機関が止まっている」「数日間、職場から家に帰れていない」という声が聞かれた。
- ・体力測定でほとんど向上が見られなかった要因もフィットネス利用が少なかったためであると考えられる。
- ・目標達成者は少なかったものの、プログラムの内容には満足してもらえたことがアンケート結果から確認する事ができた。

(3) 体力測定結果

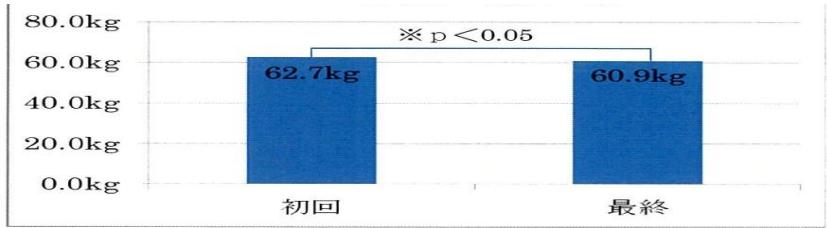
測定項目	男性（n＝3）				女性（n＝17）			
	初回		最終		初回		最終	
	値	標準偏差	値	標準偏差	値	標準偏差	値	標準偏差
心肺持久力（ml/kg/分）	49.0	(±8.5)	48.6	(±7.5)	32.0	(±6.9)	31.5	(±3.5)
筋力（kg）	41.9	(±1.7)	41.6	(±2.1)	26.2	(±3.4)	25.9	(±3.5)
筋持久力（回）	18.5	(±0.5)	21.3	(±3.1)	13.9	(±2.0)	14.5	(±5.6) ※
柔軟性（cm）	1.7	(±3.5)	0.7	(±9.7)	5.9	(±6.9)	8.3	(±6.8) ※
平衡性（秒）	15.3	(±7.8)	54.0	(±61.7)	34.9	(±44.4)	48.2	(±47.4)
敏捷性（秒）	0.336	(±0.004)	0.345	(±0.014)	0.363	(±0.038)	0.359	(±0.053)
瞬発性（cm）	50.3	(±5.2)	47.0	(±4.2)	35.0	(±6.0)	34.5	(±7.9)

- ・体力の向上が見られたのは、男性の筋持久力、平衡性、女性の筋持久力、柔軟性、平衡性、敏捷性であった。
- ・女性の筋持久力と柔軟性は統計上有意な向上となった。
- ・参加者全体では筋持久力と柔軟性が統計上有意な向上となった。

(4) 食事バランス診断結果

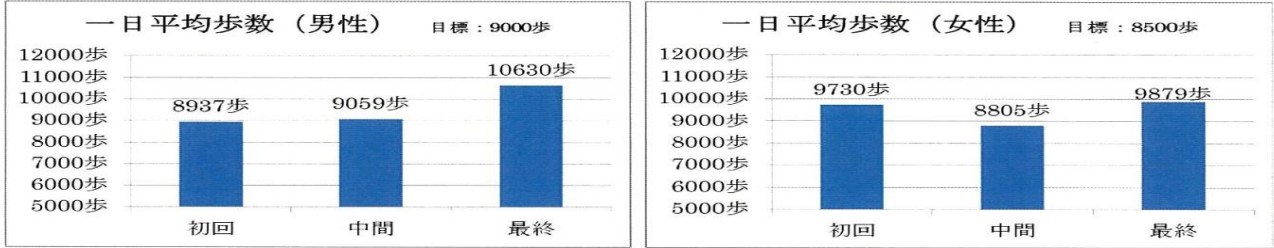


全体として初回と最終での有意差は出ませんでしたでしたが、飲酒については減少傾向がみれました、また、女性でお菓子の取り方が初回と最終で有意に低下していました。主食についても増加傾向がみれましたので今後の継続に期待いたします。



- ・目標であった体重-3%減少を達成した方は参加者20名中9名（45%）であった。
- ・全参加者の平均体重の変化は-1.8kg（約2.9%）であった。
- ・全参加者の変化は統計上有意な減少であった。
- ・男性のみでは統計上有意な減少ではなかった。
- ・女性のみでは統計上有意な減少であった。

(2) 歩数結果



- ・男女共に目標歩数を達成した。
- ・目標に対して男性は+1630歩（約118%）、女性は+1379歩（約116%）であった。
- ・女性は最初の1ヵ月間で目標歩数を達成していた。
- ・男女共に統計上有意な増加ではなかった。男女共に初回から目標歩数に近い歩数であったことが要因であると考えられる。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	- 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 - 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。	➔	- がんのリスクを減らせる生活習慣（喫煙・飲酒・食事・運動等）予防情報を配信する。 - がんについてのセミナー等を開催して、健康意識を被保険者に働きかける。 - 被扶養者の特定健診には、健康情報を配信しながら継続的な受診勧奨が必要である。	✓
2	ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	- 医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 - 医療費では被保険者の生物が多い。 - 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 - 内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 - 生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	➔	- 被保険者においては、事業所と健保組合が協働して、メタボ対策をはじめとする生活習慣病予防対策を強化する。 - がん検診受診率の向上及び再検査等のフォロー体制も各事業所で動き出したことにより、検診後の再検査等も実施され、良性新生物割合が多くなってきている。 ※レセプトチェック等により、高額頻回受診や多重服薬者を確認して、対象者へは医療費適正化のお願い通知を発送し経過観察をする。 ※不適切な受診等が継続している場合には健康保険法による給付制限を実施する。 ・「けんぽだより」等の広報誌で医療費適正化の啓蒙を図る。	✓
3	ア, イ, ウ, エ, オ, カ	- メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 - 後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。	➔	- 産業保健支援室「まめやか相談室」の活動支援を実施する。 - 後発医薬品使用の啓蒙活動は、リーフレットやポスター等の配布等による啓蒙を実施する。	✓
4	ア, イ, ウ, エ, オ, カ	医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。	➔	全被保険者を対象として口腔ケア問診プログラムを実施し歯科の治療状況を把握し、「治療費用」から「管理費用」に転換するように活動を継続する。	✓

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	- 加入者構成は、被保険者のうち約70%が女性であり、平均年齢は39.45歳（男性40.06歳、女性39.19歳）である。 - 被扶養者の扶養率は0.46%で、平均年齢は19.22歳（男性12.16%、女性24.17歳）である。 - 複数の事業所を有しており、それぞれの規模、産業保健体制等に応じて、事業主の取り組み実態が異なっている。 - 生活習慣病医療費を分析して改善対策を検討する。	➔	- 女性のがん予防、早期発見及び早期治療の検診勧奨を啓発する。 40歳以上の被扶養者の総合健診受診勧奨の啓発を図る。 - 前期高齢者の医療費対策を図る。 - 溪仁会グループの健康経営活動の一環として、加入者にICT「PepUp」アプリ等を活用して・「健康、運動、栄養、休憩」のヘルスリテラシーの向上を図る。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
-----	----	--	--------------

1	・平成29年度より、年齢階層別の総合健診を開始した。 ・被扶養者の特定健診の受診率が伸び悩んでいる。 ・複数の事業所とのコラボヘルスの基盤を構築していく必要がある。	➡	・保健事業における参加者へのインセンティブを実施する。 ・産業保健支援室にて、事業所と逦仁会グループの健診機関、健保組合が打ち合わせを実施し、コラボヘルス体制の構築を図る。
---	--	---	---

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

①「総合健診」の実施による特定健診及び特定保健指導については、事業主とのコラボヘルス体制により健診受診の向上を図る。

②加入者の意識向上を図り医療費を削減する。

③健診受診後の有所見者の事後指導体制を確立する。

事業全体の目標

①特定健診受診率90%以上、特定保健指導実施率60%以上を達成する。

②被扶養者の総合健診＋特定健診受診率60%以上を達成する。

③健診後の事後指導については100%勧奨を実施する。

事業の一覧

職場環境の整備	
加入者への意識づけ	
特定健康診査事業	被扶養者の特定健診受診率向上
特定保健指導事業	特定保健指導の実施率向上
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知発行及び啓発活動
保健指導宣伝	家族で取り組む「かぜ&むし歯」予防「つよい子になるぞ！！」キャンペーン
疾病予防	I C Tを活用した健康推進
疾病予防	予防型歯科保健事業プログラム「デンタルI Qチェック」
疾病予防	総合健診「健康サポート」事業
疾病予防	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援
疾病予防	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用
疾病予防	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助
疾病予防	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上
疾病予防	奥さま健診の受診率向上
疾病予防	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業
体育奨励	健康増進（ダイエット）プログラム
個別の事業	

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

令和4年11月01日 [この内容は未確定です。]

予算科目	注1)事業分類	新規既存	注2)事業名	対象者				注3)実施主体	注4)プロセス分類	実施方法	注5)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者											
アウトプット指標														アウトカム指標				
職場環境の整備																		
加入者への意識づけ																		
特定健康診査事業	2,3	既存(法定)	被扶養者の特定健診受診率向上	母体企業	男女	40～74	被扶養者,任意継続者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・健保組合が直接契約する浜仁会円山クリニックで「総合健診」の受診勧奨を実施する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	・全額補助実施することと、被扶養者の居城地の健診機関情報等を配信して受診率向上を図る。	1,588	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・被扶養者の生活習慣病予防及び改善を図り、医療費を減少させる。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。		
対象者への受診勧奨(【実績値】 2回 【目標値】 令和3年度：3回)・年度内に3回、未受診者への受診勧奨を実施する。														特定健診受診率(【実績値】 46.5% 【目標値】 令和3年度：75%)・特定健診受診率を60%まで増加させる。				
特定保健指導事業	1,2,4	既存(法定)	特定保健指導の実施率向上	母体企業	男女	35～74	基準該当者	3	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・検診当日の初回面接を積極的に実施して、3ヵ月後の評価終了については、事業主と健診機関との情報連携を図る。	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ,ス	・健康経営宣言の取組みによる事業主とのコラボヘルスを更に推進する。 ・健診当日の階層化による生活習慣病リスク者に対して、保健師等から保健指導の当日面接を実施する。	3,109	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・生活習慣病の罹患率を減少させることにより、心疾患及び腎不全等の医療費を減少される。 ・加入者が健康で元気な生活を送ることができ、業務の効率化が図られる。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。		
特定保健指導「利用券」送付(【実績値】 10.3% 【目標値】 令和3年度：100%)・「利用券」の送付は、事業所担当者経由で100%対象者に配付する。														特定保健指導実施率(【実績値】 11.9% 【目標値】 令和3年度：95%)・特定保健指導の実施率を95%とする。				
保健指導宣伝	2	既存	後発医薬品の差額通知発行及び啓発活動	母体企業	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者を傷病条件を限定せずに抽出して発行する。	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス	・「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行している。(通知書は事業所経由) ・ポスター等の啓蒙活動を継続する。	8	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・被保険者への医療費の意識向上により薬剤医療費の抑制及び適正化を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。		
	差額通知実施回数(【実績値】 2回 【目標値】 令和3年度：2回)・「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行する。																使用割合(【実績値】 75.45% 【目標値】 令和3年度：85.0%)・使用割合前年度より+2.0%とする。	
	1,2,3,4,5	既存	家族で取り組む「かせ&むし歯」予防「つよい子になるぞ!!!」キャンペーン*	全て	男女	3～10	被扶養者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,ク,ケ,シ	・健保組合から送付された子ども用カレンダーにシールを貼る。 ・期間終了後、アンケート「ハガキ」を投函して、プレゼントを進呈する。	イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,ス	・本事業は全国の参加健保組合との共同開催である。	625	・3～10歳未満の被扶養者を対象とした呼吸器系疾患医療費削減のキャンペーンを実施する。 ・3ヵ月間「手洗い、うがい、歯みがき」を推奨し、風邪や虫歯を予防をする。	・子供医療費負担意識啓発と、被扶養者を対象とした呼吸器系疾患医療費削減を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。		
有効回答率(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：70.0%)・アンケート回答内容のうち、本事業が有効又は役に立ったと回答した割合70%以上。														回答率(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：15.0%)・対象者のアンケート回答率(前年度9.52%)以上の達成。				
疾病予防	1,2,3,4,5,7	既存	ICTを活用した健康推進	全て	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,シ	・ウェアラブル端末とパソコンやスマートフォンから、専用アプリケーションにアクセスして、「健康状態の見える化により健康に対する行動変容を促す」ためのWebサービスで、健康維持・増進を目的としたさまざまな健康コンテンツを活用し、健康情報の見える化を図る。	ア,ウ,キ,ク,ケ,シ,ス	・業務委託をして、健康保険組合が情報管理を実施する	15,189	・ウェアラブル端末を被保険者に配付してバイタルサイン、運動量、睡眠量、健診データ等の情報を確認し、生活習慣の見直し等による被保険者の健康意識向上を図る。	・ウェアラブル端末とパソコンやスマートフォンから、専用アプリケーションにアクセスして、「健康状態の見える化により健康に対する行動変容を促す」ためのWebサービスで、健康維持・増進を目的としたさまざまな健康コンテンツを活用し、健康保険組合からのお知らせも配信したり楽しみながら参加して健康増進を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。		
	参加率(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：60.0%)・各種キャンペーン参加率60%以上																対象者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：1.0%)・特定保健指導対象者1%減少	
	2,5	既存	予防型歯科保健事業プログラム「デンタルIQチェック」	一部の事業所	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ,ス	・被保険者を対象に「デンタルIQチェック」QRコード及びURLから専用サイトにて、スマートフォンやご自分のパソコン等からアクセスして問診36問を回答する。 ・問診回答者へのインセンティブとして、歯科ヘルスケア商品セットを進呈した。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ,ス	・歯科医師が開発した歯科リスク者の把握から受診勧奨・効果測定までワンストップで実現するプログラムを実施して問診結果とレセプト等を分析する。	6,362	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・医療費のうち歯科医療費の増加を抑制する。 ・歯周病予防による健康意識の向上と禁煙の啓蒙を図る。	・医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。		
歯周病予防及び禁煙啓蒙活動(【実績値】 100% 【目標値】 令和3年度：100%)・「デンタルIQチェック」開始案内と同時に、歯周病及び禁煙啓蒙ポスター等を全事業所へ配付し、事業所でのポスター掲示率を100%とする。														「デンタルIQチェック」問診回答率(【実績値】 61.49% 【目標値】 令和3年度：70%)・「デンタルIQチェック」問診回答率を70%とする。				
1,2,3,4,5	既存	総合健診「健康サポート」事業	全て	男女	35～74	加入者全員	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・浜仁会円山クリニックと契約し、浜仁会グループオリジナルの生活習慣支援プログラム(運動、栄養指導のもと、3ヵ月後に身体測定及び採血)を実施する。	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ	・健保組合が健診機関の中にあるフィットネスジムに委託して実施する。	3,170	・特定保健指導対象の生活改善効果を図る。	・管理栄養士と健康運動指導士が、参加者の同意のもと体力測定を実施し、健診結果を基にダイエット目標を設定する。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。			
対象者減少数(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：299人)・事業対象者前年度より3%減少。																改善率(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：75.6%)・3ヵ月後の効果測定でBMI：25以上の対象者の改善率、前年度比+3.0%。		

令和4年11月01日 [この内容は未確定です。]

予算科目	注1)事業分類	新規既存	注2)事業名	対象者			注3)実施主体	注4)プロセス分類	実施方法	注5)ストロクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢										対象者
アウトプット指標												アウトカム指標				
	1,2,3,4,5	既存	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援	全て	男女	18～74	加入者全員	3	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・産業保健支援「まめやか相談室」の専門職によるセミナー、メンタル相談、復帰等ケ,コ,サ,シの活動を支援する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・「まめやか相談室」の周知や産業カウンセラー等の研修等の活用により、メンタルヘルス相談者が気軽に相談できる状況を継続する。	200	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・働きやすい職場環境への改善。 ・メンタル疾患の減少による業務効率の向上と医療費の減少。	・メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 ・後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。
相談室利用延べ件数(【実績値】 501人 【目標値】 令和3年度：550人)・「まめやか相談室」の延べ利用者数を550人に増加させる。												傷病手当金受給者数(【実績値】 110.0% 【目標値】 令和3年度：112.0%)・精神疾患による傷病手当金受給者数を年間2%減少させる。				
	3	既存	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用	母体企業	男女	35～74	被保険者	3	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・年齢階層別に健診コースを設定し、健診データの管理、病気の早期発見及び早期治療をする。 ・35歳以上75歳未満の被保険者を対象に費用の一部を健保組合が補助する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ケ,コ,シ	・健保組合が年齢階層別の総合健診Aコース(35～40歳未満)、Bコース(40～55歳未満)、Cコース、(55～64歳未満)、Dコース(65～75歳未満)を実施する。	33,957	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・健診データの一元化により、年代別生活習慣病の予防及び改善を図る。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。
健診案内及び受診勧奨(【実績値】 100% 【目標値】 令和3年度：100%)・「総合健診」の案内及び受診勧奨を事業所経由で100%実施する。												総合健診受診率(【実績値】 93.4% 【目標値】 令和3年度：100%)・全事業所の被保険者が「総合健診」を100%受診する。				
	2,4	既存	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助	母体企業	男女	18～74	被保険者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・総合健診受診時に各種がん検診を契約健診機関に予約して受診してもらう。 ・また、子宮頸部がん検診は契約健診機関以外で受診した場合は償還払いで補助する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,コ,シ	・被保険者を対象に各種がん検診費用の上限額を設定し健保組合が補助する。 ・(但し、直接契約の浜仁会円山クリニックは特別料金により全額健保補助)	8,784	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・特に被保険者の70%を占める女性のがん検診の受診率を向上させ、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。 ・その他、年代別のがん検診補助実施し、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。
がん検診案内の通知率(【実績値】 100% 【目標値】 令和3年度：100%)・総合健診の案内と同時に事業所経由で、被保険者に対して年代別がん検診補助の案内(ポスターチラシ等の情報も含む)を年3回、100%通知する。												年代別がん検診受診率(【実績値】 1,632人 【目標値】 令和3年度：1,681人)・年代別がん検診受診率は前年度比3%増加させる。 ・平成29年度からは総合健診の補助対象年齢による「がん検診」内容及び補助対象者を変更した。				
	2,4	既存	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上	母体企業	女性	40～74	被扶養者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・女性被扶養者・任意継続者のがん検診の早期発見と予防を図る。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス	・40歳以上75歳未満の女性被扶養者・任意継続者を対象に、費用の全額を健保組合が補助する。	2,024	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・被扶養者の乳がん、子宮頸がんの早期発見及び早期治療を図る。 ・新生物の医療費の減少。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。
受診勧奨の送付(【実績値】 2回 【目標値】 令和3年度：2回)対象の未受診者へ受診勧奨通知を年3回、100%発送する。												受診率の向上(【実績値】 20.1% 【目標値】 令和3年度：30.1%)・乳がん検診・子宮がん検診の受診率は、前年度より10%増加される。				
	2,3	既存	奥さま健診の受診率向上	母体企業	女性	18～39	被扶養者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ	・被扶養者である配偶者の健康管理に役立つ。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	・18歳以上40歳未満の女性被扶養者である配偶者を対象に、健診＋婦人科がん検診費用の全額を健保組合が補助する。	1,914	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・特定健診対象年齢40歳到達前の年齢から、生活習慣病の予防及び改善を図る。 ・奥さま健診受診者の健康意識が向上すると、被保険者及び家族全体の健康意識も向上する。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。
受診勧奨通知の送付(【実績値】 75人 【目標値】 令和3年度：100人)・受診者への案内通知及び未受診者への受診勧奨は、年3回、100%送付する。												奥さま健診の受診率(【実績値】 46.0% 【目標値】 令和3年度：47.0%)・前年度の受診率より10%増加させる。				
	1,2,4,6	既存	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業	母体企業	男女	18～74	被保険者	3	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・「糖尿病・高血圧症」の重症化予防として、ハイリスク者に食事や運動、受診等を勧奨する。	ア,イ,ウ,キ,コ,シ,ス	・喫煙、BMI中性脂肪、LDLコレステロール数値異常者で40歳～74歳の被保険者を抽出して、「脳ドック検診」の受診緩衝を実施する。	2,094	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・生活習慣病予防及び総合健診等の結果「要治療・要精査」判定の被保険者への病院受診の勧奨および病気の重症化予防を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。
健診結果「要治療・要精査判定者」把握(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：50人)・浜仁会円山クリニックと事業所との情報連携し、対象者情報を把握する。 ・令和3年度は予算及び検査病院の検査実施枠等により50名(前年度100名)以下として検査を実施する。												対象者への受診勧奨実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：100%)・対象者情報を把握し、事業所と連携し、受診勧奨を100%実施する。				
体育奨励	1,2,3,4,5	既存	健康増進(ダイエット)プログラム	母体企業	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・管理栄養士と健康運動指導士が、参加者の同意のもと体力測定を実施し、健診結果を基にダイエット目標を設定する。 ・1クールの定員20名で年2回、プログラムを実施する。	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ	・目標達成者には健保組合より更に3ヶ月間メディカルフィットネス円山を無料で利用できるヘルスインセンティブを付与する健康増進事業。	814	・3か月間の運動、栄養指導等により体重3kg減少維持を達成する。	・ダイエット希望者で、3ヶ月間「3kg減量」の運動、栄養プログラムを実施する。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。
申し込み定員数(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：40人)・年度内2回の実施において、2回とも定員20名(計40名)の申し込みがあること。												達成率の増加者数(【実績値】 - 【目標値】 令和3年度：34人)・参加者の体重3kg減量達成者が前年度29名より5名増加すること。				
個別の事業																

予 算 科 目	新 規 既 存	注2) 事業名	対象者				注3) 実施 主体	注4) プロセス 分類	実施方法	注5) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額 (千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
			対象 事業所	性別	年 齢	対象者									
アウトプット指標												アウトカム指標			

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 事業名の後に「*」がついている事業は共同事業を指しています。

注3) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注4) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. ＩＣＴの活用（情報作成又は情報提供でのＩＣＴ活用など） オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施

キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など） ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注5) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築 ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理） シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス. その他

STEP 4-1 事業報告

事業の一覧

職場環境の整備	
加入者への意識づけ	
1	被扶養者の特定健診受診率向上
2	特定保健指導の実施率向上
3	後発医薬品の差額通知発行及び啓発活動
4	I C Tを活用した健康推進
5	予防型歯科保健事業プログラム「デンタルI Qチェック」
6	家族で取り組む「かぜ&むし歯」予防「つよい子になるぞ!!」キャンペーン
7	総合健診「健康サポート」事業
8	健康増進（ダイエット）プログラム
9	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援
10	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用
11	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助
12	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上
13	奥さま健診の受診率向上
14	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業
個別の事業	

【保健事業の基盤】 職場環境の整備

【保健事業の基盤】 加入者への意識づけ

1	事業名	被扶養者の特定健診受診率向上									
健康課題との関連		・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。									
分類											
注1)事業分類	計画	2,3-ア	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	特定健康診査事業	新規・既存区分	既存(法定)		
	実績	2, 3-ア		実績	1. 健保組合						
共同事業		共同事業ではない									
事業の内容											
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者,任意継続者									
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者,任意継続者									
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・健保組合が直接契約する溪仁会円山クリニックで「総合健診」の受診勧奨を実施する。				予算額	1,588千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・健保組合が直接契約する溪仁会円山クリニックで「総合健診」の受診勧奨を実施する。						
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	実施体制	計画	・全額補助実施することと、被扶養者の居城地の健診機関情報等を配信して受診率向上を図る。				決算額	871 千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ		実績	・全額補助実施することと、被扶養者の居城地の健診機関情報等を配信して受診率向上を図る。						
実施計画 (令和3年度)		・前年度の状況により、具体策を検討する。									
振り返り	実施状況・時期		対象者318名、受診者153名、受診率48.11%(前年度比+8名)								
	成功・推進要因		・令和3年4月、対象者の自宅宛てに受診券＋健診案内を発送した。 ・直接契約の溪仁会円山クリニックに、受診状況を確認しながら対象者に勧奨を実施した。 ・令和3年10月、12月、健保連のレディース健診と同時に未受診者に受診勧奨を実施した。								
	課題及び阻害要因		・新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えは前年度よりも解消され、受診数が2年前まで回復傾向にある。 ・受診対象者の地域健診情報も配信する。								
評価		2. 40%以上									
事業目標											

・被扶養者の生活習慣病予防及び改善を図り、医療費を減少させる。

アウトプット指標 対象者への受診勧奨（【平成29年度末の実績値】2回【計画値/実績値】令和3年度：3回/3回 【達成度】100.0%）・年度内に3回、未受診者への受診勧奨を実施する。[-]

アウトカム指標 特定健診受診率（【平成29年度末の実績値】46.5%【計画値/実績値】令和3年度：75%/48.1% 【達成度】64.1%）・特定健診受診率を60%まで増加させる。[-]

2	事業名	特定保健指導の実施率向上							
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。							
分類									
注1)事業分類	計画	1-エ,2,4-ア	実施主体	計画	3．健保組合と事業主との共同事業	予算科目	特定保健指導事業	新規・既存区分	既存(法定)
	実績	1-エ, 2, 4-ア		実績	3．健保組合と事業主との共同事業				
共同事業		共同事業ではない							
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 基準該当者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 基準該当者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・ 検診当日の初回面接を積極的に実施して、3か月後の評価終了については、事業主と健診機関との情報連携を図る。			予算額	3,109千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・ 検診当日の初回面接を積極的に実施して、3か月後の評価終了については、事業主と健診機関との情報連携を図る。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ,ス	実施体制	計画	・ 健康経営宣言の取組みによる事業主とのコラボヘルスを更に推進する。 ・ 健診当日の階層化による生活習慣病リスク者に対して、保健師等から保健指導の当日面接を実施する。			決算額	5,166 千円
	実績	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ,ス		実績	・ 健康経営宣言の取組みによる事業主とのコラボヘルスを更に推進する。 ・ 健診当日の階層化による生活習慣病リスク者に対して、保健師等から保健指導の当日面接を実施する。				
実施計画 (令和3年度)		・ 前年度の状況により、具体策を検討する。							

振り返り	実施状況・時期	【令和3年度の状況】 ・指導対象者260名(前年度比-42名) ・初回面接修了者245名 ・評価終了者238名、91.5%
	成功・推進要因	※国への報告は令和4年10月末までには90%超の実施率の見込み。 ・健康経営宣言の取組みによる事業主とのコラボヘルスが推進された。 ・健診当日の階層化による生活習慣病リスク者に対して、保健師等から保健指導の当日面接が有効となっている。
	課題及び阻害要因	・事業所での巡回健診受診者は、当日面接が実施できないため、健診結果報告後のフォローアップが実施できている。 ・事業所への指導対象者情報と同時に、溪仁会円山クリニック保健師等に情報連携を実施した。

評価	4 . 80%以上
----	-----------

事業目標

- ・生活習慣病の罹患率を減少させることにより、心疾患及び腎不全等の医療費を減少される。
- ・加入者が健康で元気な生活を送ることができ、業務の効率化が図られる。

アウトプット指標

特定保健指導「利用券」送付（【平成29年度末の実績値】10.3%【計画値/実績値】令和3年度：100%/90.0% 【達成度】90.0%）・「利用券」の送付は、事業所担当者経由で100%対象者に配付する。
[・前年度同様に、対象者の初回面接は90%済んでいる。
国・への報告時期10月末には90%に達する。]

アウトカム指標

特定保健指導実施率（【平成29年度末の実績値】11.9%【計画値/実績値】令和3年度：95%/91.5% 【達成度】96.3%）・特定保健指導の実施率を95%とする。[35歳以上75歳未満の実施率91.5%、
国への報告40歳以上75歳未満の実施率97.6%を実績した。
]

3 事業名 後発医薬品の差額通知発行及び啓発活動

健康課題との関連	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。						
	循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。						

分類

注1)事業分類	計画	2	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	2		実績	1. 健保組合				

共同事業	共同事業ではない
------	----------

事業の内容

対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者					
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者を傷病条件を限定せずに抽出して発行する。	予算額	8千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者を傷病条件を限定せずに抽出して発行する。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス	実施体制	計画	・「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行している。(通知書は事業所経由) ・ポスター等の啓蒙活動を継続する。	決算額	1,782 千円
	実績	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス		実績	・「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行している。(通知書は事業所経由) ・ポスター等の啓蒙活動を継続する。		
実施計画 (令和3年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。						
振り返り	実施状況・時期	・令和3年1月、「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者を傷病条件を限定せずに抽出して発行した。 ・令和3年4月～令3年9月診療分59名に発行					
	成功・推進要因	・WEBサイトからセキュリティコードを入力し、アクセスする。 毎月の後発医薬品差額や情報等が確認可能。 ※令和3年度の使用割合82.40%である。					
	課題及び阻害要因	・WEB上で被保険者への医療費の意識向上と、健保組合の作業効率向上を図る。 ※健保組合から、活用方法等を定期的に配信して、医療費の適正化を啓蒙する。					
評価	4．80%以上						
事業目標							
・被保険者への医療費の意識向上により薬剤医療費の抑制及び適正化を図る。							
アウトプット指標							
差額通知実施回数（【平成29年度末の実績値】2回【計画値/実績値】令和3年度：2回/2回 【達成度】100.0%）・「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行する。[決算額は「医療費通知書発行」、「後発医薬品差額通知」のポータルサイト開設必要も含む費用である。]							
アウトカム指標 使用割合（【平成29年度末の実績値】75.45%【計画値/実績値】令和3年度：85.0%/82.4% 【達成度】96.9%）・使用割合前年度より+2.0%とする。[-]							

4 事業名	ICTを活用した健康推進
-------	--------------

健康課題との関連	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類									
注1)事業分類	計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,7-ウ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,7-ウ		実績	1. 健保組合				
共同事業	共同事業ではない								
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・ウェアラブル端末とパソコンやスマートフォンから、専用アプリケーションにアクセスして、「健康状態の見える化により健康に対する行動変容を促す」ためのWebサービスで、健康維持・増進を目的としたさまざま 健康コンテンツを活用し、健康情報の見える化を図る。		予算額	15,189千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・ウェアラブル端末とパソコンやスマートフォンから、専用アプリケーションにアクセスして、「健康状態の見える化により健康に対する行動変容を促す」ためのWebサービスで、健康維持・増進を目的としたさまざま 健康コンテンツを活用し、健康情報の見える化を図る。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,ウ,キ,ク,ケ,シ,ス	実施体制	計画	・業務委託をして、健康保険組合が情報管理を実施する		決算額	12,321 千円	
	実績	ア,ウ,キ,ク,ケ,シ,ス		実績	・業務委託をして、健康保険組合が情報管理を実施する				
実施計画 (令和3年度)	・ウェアラブル端末を被保険者に配付してバイタルサイン、運動量、睡眠量、健診データ等の情報を確認し、生活習慣の見直し等による被保険者の健康意識向上を図る。								

振り返り	実施状況・時期	・Fitbit Inspire HR 心拍数機能付を400名に配付した。 ・各種イベントと期間 ①体重測定キャンペーン、令和3年8月15日～8月20日実施 ②ウォーキングラリー、令和3年10月1日～10月30日実施 ③健康クイズ、令和4年1月11日～1月31日実施 ④睡眠キャンペーン、令和4年3月1日～3月20日実施 ⑤eラーニング、令和3年11月1日～11月30日実施
	成功・推進要因	・参加状況 ①10日間以上の体重測定1日100ポイント付与者361名 ②2ヶ月継続、454名参加、1日平均8,000歩で1,000ポイント付与、チーム参加29組 ③1カテゴリ正解100ポイント、全カテゴリ（全30問）正解で1,000ポイント、参加者439名、ポイント付与者406名 ④20日記録で500ポイント付与、参加者485名 ⑤「女性の健康3教材」、「たばこと健康」2教材実施
	課題及び阻害要因	・PepUpユーザー登録数は36.5%。 ・令和3年度からは、18歳以上の全被保険者を対象として、ユーザー登録通知を配信した。 ・浜仁会グループ職員の健康管理ツールとして、アプリのユーザー登録者数の増加を図る。 ・ウォーキングラリーは、チーム対抗又はグループ別の登録は、楽しく、目標設定をして、職場のコミュニケーションにも繋がった。 ※イベント参加のヘルスポイント付与増加費用が予算上限られている。

評価 1. 39%以下

事業目標

・ウェアラブル端末とパソコンやスマートフォンから、専用アプリケーションにアクセスして、「健康状態 の見える化により健康に対する行動変容を促す」ためのWebサービスで、健康維持・増進を目的としたさまざまな健康コンテンツを活用し、健康保険組合からのお知らせも配信したり楽しみながら参加して健康増進を図る。

アウトプット指標 参加率（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和3年度：60.0%/36.5% 【達成度】60.8%）・各種キャンペーン参加率60%以上[-]

アウトカム指標

対象者割合（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和3年度：1.0%/1.2% 【達成度】120.0%）・特定保健指導対象者1%減少[前年度対象者302人、今年度対象者270人]

5	事業名	予防型歯科保健事業プログラム「デンタルIQチェック」							
健康課題との関連		・医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,5-ア	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	2,5-ア		実績	1. 健保組合				
共同事業		共同事業ではない							

事業の内容							
対象者	計画	対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
	実績	対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ,ス	実施方法	計画	・被保険者を対象に「デンタルIQチェック」QRコード及びURLから専用サイトに、スマートフォンやご自分のパソコン等からアクセスして問診36問を回答する。 ・問診回答者へのインセンティブとして、歯科ヘルスケア商品セットを進呈した。	予算額	6,362千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ,ス		実績	・被保険者を対象に「デンタルIQチェック」QRコード及びURLから専用サイトに、スマートフォンやご自分のパソコン等からアクセスして問診36問を回答する。 ・問診回答者へのインセンティブとして、歯科ヘルスケア商品セットを進呈した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ,ス	実施体制	計画	・歯科医師が開発した歯科リスク者の把握から受診勧奨・効果測定までワンストップで実現するプログラムを実施して問診結果とレセプト等を分析する。	決算額	9,321 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ,ス		実績	・歯科医師が開発した歯科リスク者の把握から受診勧奨・効果測定までワンストップで実現するプログラムを実施して問診結果とレセプト等を分析する。		
実施計画 (令和3年度)		・前年度の状況により、具体策を検討する。					
振り返り	実施状況・時期		・デンタルIQチェック実施期間は令和3年10月1日～10月30日 ・対象者4,758名 ・有効回答者934名（19.6%） ・歯科予防と歯科健診の勧めポスターを各事業所に掲示 ・全被保険者に口腔ケアと歯科健診受診勧奨用Wポケット・当組合オリジナルクリアファイルを配付				
	成功・推進要因		・事業実施結果の分析により、セルフケア及びハイリスクによる歯科受診勧奨を実施した。 ※問診回答抽出 （①問診回答で歯科リスク、②歯科レセプトなし、歯科未受診）へのハガキによる歯科受診勧奨者45名 ※歯科レセプト分析による「糖尿病＋心疾患」高リスク者へ手紙による歯科治療勧奨者227名				
	課題及び阻害要因		・デンタルIQチェックは、回答者へのヘルスインセンティブポイントなしとした結果、前年度より回答数が-4.2%となった。 ・歯科医療費は医療費全体の12.5%を占めている。 ・当組合の被保険者の歯科医療費は、歯周病関連の治療費が90.5%である。 ※その歯科医療費を治療から管理に変えると医療費も減少し、被保険者の健康と労働生産性も向上する。				
評価	1．39%以下						
事業目標							

- ・医療費のうち歯科医療費の増加を抑制する。
- ・歯周病予防による健康意識の向上と禁煙の啓蒙を図る。

アウトプット指標

歯周病予防及び禁煙啓蒙活動（【平成29年度末の実績値】100%【計画値/実績値】令和3年度：100%/100% 【達成度】100.0%）・「デンタルI Qチェック」開始案内と同時に、歯周病及び禁煙啓蒙ポスター等を全事業所へ配付し、事業所でのポスター掲示率を100%とする。

[-]

アウトカム指標

「デンタルI Qチェック」問診回答率（【平成29年度末の実績値】61.49%【計画値/実績値】令和3年度：70%/19.6% 【達成度】28.0%）・「デンタルI Qチェック」問診回答率を70%とする。[-]

6	事業名	家族で取り組む「かぜ＆むし歯」予防「つよい子になるぞ！！」キャンペーン								
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類										
注1)事業分類		計画	1-ア,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-エ,3-カ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-カ,4-ク,5-ア,5-ウ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
		実績	1-ア, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-エ, 3-カ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-カ, 4-ク, 5-ア, 5-ウ, 5-キ		実績	1. 健保組合				
共同事業		共同事業である								
事業の内容										
対象者		計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 3～10 対象者分類 被扶養者							
		実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 3～10 対象者分類 被扶養者							
注2)プロセス分類		計画	ア,イ,ウ,エ,オ,ク,ケ,シ	実施方法	計画	・健保組合から送付された子ども用カレンダーにシールを貼る。 ・期間終了後、アンケート「ハガキ」を投函して、プレゼントを進呈する。		予算額	625千円	
		実績	ア,イ,ウ,エ,オ,ク,ケ,シ		実績	・健保組合から送付された子ども用カレンダーにシールを貼る。 ・期間終了後、アンケート「ハガキ」を投函して、プレゼントを進呈する。				
注3)ストラクチャー分類		計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,ス	実施体制	計画	・本事業は全国の参加健保組合との共同開催である。		決算額	400 千円	

	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,ス	実績	・本事業は全国の参加健保組合との共同開催である。	
実施計画 (令和3年度)	・3～10歳未満の被扶養者を対象とした呼吸器系疾患医療費削減のキャンペーンを実施する。 ・3ヵ月間「手洗い、うがい、歯みがき」を推奨し、風邪や虫歯を予防をする。				
振り返り	実施状況・時期 ・対象者552名にアンケート実施、回答数73名、（前年度比+20名）回答率13.2%結果となった。				
	成功・推進要因				
	・本事業は全国の参加健保組合との共同開催である。 ※アンケートの内容では、ご家族がお子さんに手洗い、うがい、歯みがきを実施する効果やコミュニケーション、子供医療費の啓発が図られたことが見てとれた。				
	課題及び阻害要因 ・前年度に続き、案内開始時にアンケート回答者へのプレゼント商品紹介等をして回答率向上の工夫をする。				
評価	1．39%以下				
事業目標					
・子供医療費負担意識啓発と、被扶養者を対象とした呼吸器系疾患医療費削減を図る。					
アウトプット指標					
有効回答率（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：70.0%/75.0% 【達成度】 107.1%）・アンケート回答内容のうち、本事業が有効又は役に立ったと回答した割合70%以上。[アンケート件数、内容ともに有効な事業である回答者が増加した。]					
アウトカム指標					
回答率（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：15.0%/13.2% 【達成度】 88.0%）・対象者のアンケート回答率（前年度9.52%）以上の達成。[前年度より3.68%増回した。]					

7	事業名	総合健診「健康サポート」事業								
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類										
注1)事業分類		計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-キ,4-ア,4-カ,4-ク,5-ア,5-イ,5-ウ,5-オ,5-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
		実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-キ,4-ア,4-カ,4-ク,5-ア,5-イ,5-ウ,5-オ,5-キ		実績	1. 健保組合				
共同事業		共同事業ではない								
事業の内容										
対象者		計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 加入者全員							

	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35 ～ 74 対象者分類 加入者全員					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・ 湊仁会円山クリニックと契約し、湊仁会グループオリジナルの生活習慣支援プログラム（運動、栄養指導のもと、3ヵ月後に身体測定及び採血）を実施する。	予算額	3,170千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・ 湊仁会円山クリニックと契約し、湊仁会グループオリジナルの生活習慣支援プログラム（運動、栄養指導のもと、3ヵ月後に身体測定及び採血）を実施する。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ	実施体制	計画	・ 健保組合が健診機関の中にあるフィットネスジムに委託して実施する。	決算額	3,994 千円
	実績	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ		実績	・ 健保組合が健診機関の中にあるフィットネスジムに委託して実施する。		
実施計画 (令和3年度)	・ 特定保健指導対象の生活改善効果を図る。						
振り返り	実施状況・時期		・ 対象者167名(被扶養者・任継者除く) ・ 運動実施者3ヶ月延べ616名 ・ 採血実施者99名 ・ 栄養補助食品配付延べ253名				
	成功・推進要因		・ 指導状況は前年度から今年度へと継続して経過観察、評価している。 【統計学的結果】 ・ 採血結果99人/52名がHbA1c:0.01低下の優位性が認められた。 ・ BMI(23.0～24.9)の17名が、BMI・腹囲・AST・ALTの低下は対象集団と比較して効果があった。				
	課題及び阻害要因		・ みなし対象者は比較的元気な労働者であり、血圧値、脂質検査数値、肝機能数値、HbA1c数値がほぼ正常値に近い対象者であった。 ・ 対象集団との間に背景やモチベーションの違いがあるため、選択バイアスを加味して解釈する必要がある。				
評価	1．39%以下						
事業目標							
・ 管理栄養士と健康運動指導士が、参加者の同意のもと体力測定を実施し、健診結果を基にダイエット目標を設定する。							
アウトプット指標		対象者減少数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：299人/167人 【達成度】 55.9%）・事業対象者前年度より3%減少。[今年度対象者167人]					
アウトカム指標							
改善率（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：75.6%/75.6% 【達成度】 100.0%）・3ヵ月後の効果測定でBMI：25以上の対象者の改善率、前年度比+3.0%。[-]							

8	事業名	健康増進（ダイエット）プログラム
健康課題との関連	・ 医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・ 医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・ 内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・ 生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	

分類										
注1)事業分類	計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-キ,4-ア,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ,5-ク		実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	体育奨励	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-キ,4-ア,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ,5-ク			実績	1. 健保組合				
共同事業	共同事業ではない									
事業の内容										
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者								
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者								
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実施方法	計画	・管理栄養士と健康運動指導士が、参加者の同意のもと体力測定を実施し、健診結果を基にダイエット目標を設定する。 ・1クールの定員20名で年2回、プログラムを実施する。		予算額	814千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ			実績	・管理栄養士と健康運動指導士が、参加者の同意のもと体力測定を実施し、健診結果を基にダイエット目標を設定する。 ・1クールの定員20名で年2回、プログラムを実施する。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ		実施体制	計画	・目標達成者には健保組合より更に3ヶ月間メディカルフィットネス円山を無料で利用できるヘルスインセンティブを付与する健康増進事業。		決算額	305 千円	
	実績	ア,イ,ウ,キ,ケ,コ,シ			実績	・目標達成者には健保組合より更に3ヶ月間メディカルフィットネス円山を無料で利用できるヘルスインセンティブを付与する健康増進事業。				
実施計画 (令和3年度)	・3か月間の運動、栄養指導等により体重3kg減少維持を達成する。									
振り返り	実施状況・時期		・新型コロナウイルス感染拡大のため、年度内1回のみ実施。 【1クール目】 令和3年11月25日から3ヶ月間、定員20名で実施し、9名が目標体重3%減量を達成した。							
	成功・推進要因		・フィットネス利用時に運動・食事面・体重・モチベーションが停滞気味の方へのサポート体制を強化したことが事業成功要因のひとつであったと考えられる。 ・参加者の多くは無料でフィットネスジムを3ヶ月利用できること。 ・専門家より指導が受けられたこと。							
	課題及び阻害要因		・コロナ禍による感染予防に注意を払いながらの実施となったことは、参加者も担当者も苦労が多かった。 ※大雪の影響により参加者が施設に来ることができず、3ヶ月間の定期的な運動評価や食事指導の実施期間が、2ヵ月間ずれ込み、令和4年度実施費用となった。							
評価	1. 39%以下									
事業目標										

・ダイエット希望者で、3ヶ月間「3kg減量」の運動、栄養プログラムを実施する。

アウトプット指標

申し込み定員数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：40人/20人 【達成度】 50.0%）・年度内2回の実施において、2回とも定員20名（計40名）の申し込みがあること。[・コロナ禍による感染予防として、蜜をさけるため今年度は1回のみ実施した。]

アウトカム指標

達成率の増加者数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和3年度：34人/9人 【達成度】 26.5%）・参加者の体重3kg減量達成者が前年度29名より5名増加すること。[・コロナ禍による感染予防に加え、大雪の影響により参加者の利用回数が減少した。]

9	事業名	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援							
健康課題との関連		・メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 ・後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。							
分類									
注1)事業分類	計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-イ,3-ウ,3-オ,3-キ,4-ア,4-オ,4-カ,4-ク,5-イ,5-ウ,5-エ,5-キ,5-ク	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-イ,3-ウ,3-オ,3-キ,4-ア,4-オ,4-カ,4-ク,5-イ,5-ウ,5-エ,5-キ,5-ク		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
共同事業		共同事業ではない							
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 加入者全員							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・産業保健支援「まめやか相談室」の専門職によるセミナー、メンタル相談、復帰等の活動を支援する。			予算額	200千円
	実績	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・産業保健支援「まめやか相談室」の専門職によるセミナー、メンタル相談、復帰等の活動を支援する。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施体制	計画	・「まめやか相談室」の周知や産業カウンセラー等の研修等の活用により、メンタルヘルス相談者が気軽に相談できる状況を継続する。			決算額	0千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・「まめやか相談室」の周知や産業カウンセラー等の研修等の活用により、メンタルヘルス相談者が気軽に相談できる状況を継続する。				
実施計画(令和3年度)		・前年度の状況により、具体策を検討する。							

振り返り	実施状況・時期	【相談件数】 ・ 述べ726件 ・ 前年度比+74件（うち新規相談222件で前年度+50件）
	成功・推進要因	・ 「まめやか相談室」の周知や産業カウンセラー等の研修等の活用により、メンタルヘルス相談者が気軽に相談できる状況となってきた。
	課題及び阻害要因	・ これまで以上に「まめやか相談室」を気軽に利用できるように、産業保健支援室でリーフレットやポスター等を作成する。 ・ 溪仁会グループのストレスチェック実施時の設問等による啓蒙を実施を検討する。
評価	4．80%以上	
事業目標		
・ 働きやすい職場環境への改善。 ・ メンタル疾患の減少による業務効率の向上と医療費の減少。		
アウトプット指標		
相談室利用延べ件数（【平成29年度末の実績値】501人【計画値/実績値】令和3年度：550人/726人　【達成度】132.0%）・「まめやか相談室」の延べ利用者数を550人に増加させる。[-]		
アウトカム指標		
傷病手当金受給者数（【平成29年度末の実績値】110.0%【計画値/実績値】令和3年度：112.0%/97.5%　【達成度】87.1%）・精神疾患による傷病手当金受給者数を年間2%減少させる。[受給者は前年度32人、今年度37人に増加した。]		

10	事業名	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用									
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。									
分類											
注1)事業分類	計画	3-イ	実施主体	計画	3．健保組合と事業主との共同事業		予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存	
	実績	3-イ		実績	3．健保組合と事業主との共同事業						
共同事業		共同事業ではない									
事業の内容											
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者									
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 被保険者									
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・ 年齢階層別に健診コースを設定し、健診データの管理、病気の早期発見及び早期治療をする。 ・ 35歳以上75歳未満の被保険者を対象に費用の一部を健保組合が補助する。				予算額	33,957千円	
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・ 年齢階層別に健診コースを設定し、健診データの管理、病気の早期発見及び早期治療をする。 ・ 35歳以上75歳未満の被保険者を対象に費用の一部を健保組合が補助する。						

注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ケ,コ,シ	実施体制	計画	・健保組合が年齢階層別の総合健診Aコース（35～40歳未満）、Bコース（40～55歳未満）、Cコース、（55～64歳未満）、Dコース（65～75歳未満）を実施する。	決算額	26,847 千円
	実績	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ケ,コ,シ		実績	・健保組合が年齢階層別の総合健診Aコース（35～40歳未満）、Bコース（40～55歳未満）、Cコース、（55～64歳未満）、Dコース（65～75歳未満）を実施する。		
実施計画 (令和3年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。						
振り返り	実施状況・時期		・Aコース（35～40歳未満）1人当たり2,700円補助、受診者数566名 ・Bコース（40～55歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数1,386名 ・Cコース（55～65歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数511名 ・Dコース（65～75歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数155名 ・合計2,618名(前年度比118名) ※受診率は全対象者の98.3%				
	成功・推進要因		・C、Dコースは、喫煙者に胸部CT検査を追加、男性には前立腺がん血液検査を追加している。 ・Dコースは、女性に骨粗鬆症検査を追加している。 ※40歳以上の総合健診受診者のうち、胃部X線検査をキャンセルした方には、「ペプシノゲン検査」を実施している。 また、希望により「ヘリコバクターピロリ菌検査」も実施している。 ※検査費用については、契約により胃部X線検査キャンセル減額、ペプシノゲン追加費用の差引で計算する。				
	課題及び阻害要因		・事業所によっては100%受診に満たないところがあるため、健保組合と事業所が情報連携して、未受診者対策を実施する。 ※新型コロナウイルスの影響、事業所でのクラスター発生により、健診時期が延期となり、事業所と健診機関、健保組合との確認、調整に苦慮した。				
評価	4．80%以上						
事業目標							
・健診データの一元化により、年代別生活習慣病の予防及び改善を図る。							
アウトプット指標							
健診案内及び受診勧奨（【平成29年度末の実績値】100%【計画値/実績値】令和3年度：100%/100% 【達成度】100.0%）・「総合健診」の案内及び受診勧奨を事業所経由で100%実施する。[-]							
アウトカム指標		総合健診受診率（【平成29年度末の実績値】93.4%【計画値/実績値】令和3年度：100%/98.3% 【達成度】98.3%）・全事業所の被保険者が「総合健診」を100%受診する。[-]					

11	事業名	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助							
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,4-才	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存

	実績	2, 4-オ		実績	1. 健保組合				
共同事業	共同事業ではない								
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・総合健診受診時に各種がん検診を契約健診機関に予約して受診してもらう。 ・また、子宮頸部がん検診は契約健診機関以外で受診した場合は償還払いで補助する。			予算額	8,784千円
	実績	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・総合健診受診時に各種がん検診を契約健診機関に予約して受診してもらう。 ・また、子宮頸部がん検診は契約健診機関以外で受診した場合は償還払いで補助する。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,コ,シ	実施体制	計画	・被保険者を対象に各種がん検診費用の上限額を設定し健保組合が補助する。 ・（但し、直接契約の溪仁会円山クリニックは特別料金により全額健保補助)			決算額	9,410 千円
	実績	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,コ,シ		実績	・被保険者を対象に各種がん検診費用の上限額を設定し健保組合が補助する。 ・（但し、直接契約の溪仁会円山クリニックは特別料金により全額健保補助)				
実施計画 (令和3年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。								
振り返り	実施状況・時期		①胸部ＣＴ検査、受診者数88名(前年度比-16名) ②前立腺腫瘍マーカー検査 受診者数196名(前年度比+5名) ③乳がん検診(マンモ、エコー検査)、受診者数869名(前年度比+82名) ④子宮(頸部)がん検診受診者数854名(前年度比+220名)、再掲18～39歳97名(前年度比+26名)						
	成功・推進要因		各種がん検診を実施することにより、早期発見、早期治療による医療費減と加入者の回復を図る。						
			①肺がんの早期発見、喫煙している被保険者に実施している。 ※40歳以上の被保険者の喫煙率18.3%(前年度比-4.8%)						
	課題及び阻害要因		①肺がんの早期発見のために、検査受診者を増加したいが、放射線被ばくも懸念されているため、今後も検討する。 ②有所見者数を把握する。 ③受診率及び有所見者年齢等を把握し、受診勧奨をする。 ④早期発見及び受診率向上のため、総合健診とは別に契約健診機関以外での単独受診に対しても、償還払いによる補助をしている。						
評価	3. 60%以上								
事業目標									

- ・特に被保険者の70%を占める女性のがん検診の受診率を向上させ、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。
- ・その他、年代別のがん検診補助実施し、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。

アウトプット指標

がん検診案内の通知率（【平成29年度末の実績値】100%【計画値/実績値】令和3年度：100%/80% 【達成度】80.0%）・総合健診の案内と同時に事業所経由で、被保険者に対して年代別がん検診補助の案内（ポスターチラシ等の情報も含む）を年3回、100%通知する。[・コロナ禍により受診控えや受診時期の変更等もあり、年2回実施の結果であった。]

アウトカム指標

年代別がん検診受診率（【平成29年度末の実績値】1,632人【計画値/実績値】令和3年度：1,681人/2,007人 【達成度】119.4%）・年代別がん検診受診率は前年度比3%増加させる。
・平成29年度からは総合健診の補助対象年齢による「がん検診」内容及び補助対象者を変更した。[-]

12	事業名	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上							
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,4-才	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	2,4-才		実績	1．健保組合				
共同事業		共同事業ではない							
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・女性被扶養者・任意継続者のがん検診の早期発見と予防を図る。			予算額	2,024千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・女性被扶養者・任意継続者のがん検診の早期発見と予防を図る。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス	実施体制	計画	・40歳以上75歳未満の女性被扶養者・任意継続者を対象に、費用の全額を健保組合が補助する。			決算額	1,072 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,ス		実績	・40歳以上75歳未満の女性被扶養者・任意継続者を対象に、費用の全額を健保組合が補助する。				

実施計画 (令和3年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。		
振り返り	実施状況・時期	①乳がん(マンモ、エコー)検診、受診者109名(前年度比+10名) ②子宮(頸部)がん検診、受診者107名(前年度+13名)	
	成功・推進要因	・新型コロナウイルス感染症予防対策をして、健康管理をすることの必要性を受診勧奨を実施した。 ・受診者負担の無料化を継続する。	
	課題及び阻害要因	・被扶養者が積極的にがん検診の費用性、受診してもらえる環境や情報の提供を検討する。	
評価	2．40%以上		
事業目標			
・被扶養者の乳がん、子宮頸がんの早期発見及び早期治療を図る。 ・新生物の医療費の減少。			
アウトプット指標	受診勧奨の送付（【平成29年度末の実績値】2回【計画値/実績値】令和3年度：2回/2回　【達成度】100.0%）対象の未受診者へ受診勧奨通知を年3回、100%発送する。[-]		
アウトカム指標			
受診率の向上（【平成29年度末の実績値】20.1%【計画値/実績値】令和3年度：30.1%/40.0%　【達成度】132.9%）・乳がん検診・子宮がん検診の受診率は、前年度より10%増加される。[-]			

13	事業名	奥さま健診の受診率向上							
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,3-キ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	2, 3-キ		実績	1. 健保組合				
共同事業		共同事業ではない							
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 18 ～ 39 対象者分類 被扶養者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 18 ～ 39 対象者分類 被扶養者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ	実施方法	計画	・ 被扶養者である配偶者の健康管理に役立てる。			予算額	1,914千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ		実績	・ 被扶養者である配偶者の健康管理に役立てる。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	実施体制	計画	・ 18歳以上40歳未満の女性被扶養者である配偶者を対象に、健診＋婦人科がん検診費用の全額を健保組合が補助する。			決算額	1,033 千円

	実績 ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、 ケ		実績 ・18歳以上40歳未満の女性被扶養者である配偶者を対象に、健診＋婦人科がん検診 費用の全額を健保組合が補助する。	
実施計画 (令和3年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。			
振り返り	実施状況・時期	・受診者41名(前年度比+4名) ・乳がん(マンモ、エコー)検診受診者36名(前年度比+4名) ・子宮(頸部)がん検診受診者36名(前年度比+6名)		
	成功・推進要因	・新型コロナウイルス感染症予防対策をして、健康管理をすることの受診勧奨を実施した。 ・受診者負担の無料化を継続する。		
	課題及び阻害要因	・新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えはあるが、前年度より受診数が増加してきた。		
評価	2. 40%以上			
事業目標				
・ 特定健診対象年齢40歳到達前の年齢から、生活習慣病の予防及び改善を図る。 ・ 奥さま健診受診者の健康意識が向上すると、被保険者及び家族全体の健康意識も向上する。				
アウトプット指標				
受診勧奨通知の送付（【平成29年度末の実績値】75人【計画値/実績値】令和3年度：100人/87人　【達成度】87.0%）・受診者への案内通知及び未受診者への受診勧奨は、年3回、100%送付する。[年度内の被扶養者である対象者の資格喪失が多かった。]				
アウトカム指標				
奥さま健診の受診率（【平成29年度末の実績値】46.0%【計画値/実績値】令和3年度：47.0%/40.0%　【達成度】85.1%）・前年度の受診率より10%増加させる。[-]				

14	事業名	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業									
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・医療費では被保険者の生物が多い。 循環器系疾患では、職員の再雇用等の高齢により高血圧症が増加している。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。									
		分類									
		注1)事業分類	計画	1-エ,2,4-ア,4-カ,6	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
			実績	1-エ,2,4-ア,4-カ,6		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
共同事業		共同事業ではない									
事業の内容											
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者									
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 被保険者									

注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・「糖尿病・高血圧症」の重症化予防として、ハイリスク者に食事や運動、受診等を勧奨する。	予算額	2,094千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・「糖尿病・高血圧症」の重症化予防として、ハイリスク者に食事や運動、受診等を勧奨する。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ,シ,ス	実施体制	計画	・喫煙、BMI 中性脂肪、LDL コレステロール数値異常者で40歳～74歳の被保険者を抽出して、「脳ドック検診」の受診緩衝を実施する。	決算額	209 千円
	実績	ア,イ,ウ,キ,コ,シ,ス		実績	・喫煙、BMI 中性脂肪、LDL コレステロール数値異常者で40歳～74歳の被保険者を抽出して、「脳ドック検診」の受診緩衝を実施する。		
実施計画 (令和3年度)		・前年度の状況により、具体策を検討する。					
振り返り	実施状況・時期		・国の補助金決定後、令和3年9月から令和4年3月まで実施。 ・疾病リスクを保健師が抽出して17名を対象としたが検査受診実績は5名であった。				
	成功・推進要因		【所見の内訳】 脳動脈瘤疑い1名、動脈硬化進行予防のため糖尿病・高血圧症等の加療継続指示2名、禁煙指示2名の所見があった。 ・早期発見早期治療による医療費減と加入者の回復を図る。				
	課題及び阻害要因		・溪仁会円山クリニックと溪仁会グループ病院との検査枠の調整があった。 ・次年度からの保険者機能強化支援事業補助はないため、本事業実施は難しい。 ・別途、重症化予防を検討する必要がある。				
評価		1．39%以下					
事業目標							
・生活習慣病予防及び総合健診等の結果「要治療・要精査」判定の被保険者への病院受診の勧奨および病気の重症化予防を図る。							
アウトプット指標							
健診結果「要治療・要精査判定者」把握（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和3年度：50人/17人 【達成度】34.0%）・溪仁会円山クリニックと事業所との情報連携し、対象者情報を把握する。 ・令和3年度は予算及び検査病院の検査実施枠等により50名（前年度100名）以下として検査を実施する。[-]							
アウトカム指標							
対象者への受診勧奨実施率（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和3年度：100%/29.4% 【達成度】29.4%）・対象者情報を把握し、事業所と連携し、受診勧奨を100%実施する。[-]							

【個別の事業】

- 注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業
- 注2) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. I C T の活用（情報作成又は情報提供でのI C T活用など）
 オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）
 ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他
- 注3) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築
 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築 ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理）
 シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス. その他